

平成30年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学理工学部

評価委員会

令和元年12月

目 次

平成 30 年度教員個人評価について	1
1. 教員個人評価の実施状況	2
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など	2
1.2. 教員個人評価の実施概要	2
1.2.1. 評価組織	2
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等	2
1.2.3. 添付資料	4
2. 理工学部・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行った教育研究活動等	5
3. 評価領域別の集計及び分析	7
3.1. 教育の領域	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項	7
3.1.2. 教育改善に関する事項	9
3.1.3. 教育研修・FDに関する事項	14
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	16
3.1.5. 学生の受賞等	18
3.2. 研究の領域	20
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績	20
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績	22
3.2.3. 受賞等の実績	25
3.3. 国際・社会貢献の領域	25
3.3.1. 国際交流実績	25
3.3.2. 社会貢献実績	29
3.4. 組織運営の領域	34
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	37
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度	37
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム	39
4.3. 評価委員からのコメント	46
令和元年度理工学部評価委員会委員	50

平成 30 年度教員個人評価について

理工学部における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、理工学部評価委員会の下に置かれた理工学部個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書は平成 30 年度の個人評価を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの観点から、それぞれ教員が 5 段階評価を行います。次に、個人評価実施委員会が、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び理工学部と工学系研究科の目標達成に向けた活動という観点から個人評価点の妥当性を点検します。

各専攻・学科の詳細は本編に記載されていますので、理工学部・工学系研究科としてのまとめを以下に整理します。

個人評価の実施状況については、やむを得ない事情で回答できなかった者を除いた全ての教員が回答していることにより、個人評価に対する教員の積極的な取り組みが伺えます。評価の 4 つの観点において全て高く自己評価する(評価される)ことがベストとは考えますが、該当年度の役職や職位により差が出る観点があると思います。しかし、教育・研究は大学の使命であり、十分なレベルが要望されています。

教育活動では、組織的には環境・エネルギー科学グローバルプログラム (PPGA) および大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)を提供しており、学科および専攻においては適切な授業科目数を担当しており、十分な研究指導も実施されています。また、実効的な教育改善および学生相談にも取り組んでいます。これらの結果が 40 件の学生受賞に表れたものと思います。

研究における活発な活動は、多くの学術論文掲載数、74 件の共同研究、21 件の受賞、という成果となって表れていると考えます。

国際交流では、組織的には 3 件の国際パートナーシップを実施し、学科および専攻では 81 件の国際共同研究・国際セミナー開催・国際会議発表等の実績を挙げています。

社会貢献では、156 件のジョイントセミナー・高大連携行事・佐賀県とのコラボ事業・佐賀県内企業とのコラボ事業・学会活動を実施しており、十分な実績と考えます。

組織運営は、上述しました差は認められますが、十分な取り組みが行われています。

本報告書に示されています様に教員の多大な尽力が認められますが、これに満足することなく、“流れる水は腐らず”の諺の様に全教員がいつも生き生きとして活動し、PDCAサイクルにより常に向上して欲しいと願っています。今後も教員一丸となって取り組みますので、皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

理工学部長・工学系研究科長
渡 孝則

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数，個人評価実施者数，実施率など

理工学部所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表のとおり平成31年3月に退職した准教授1名及び休職中の助教1名を除く全員から回答を得た（回答率98.5%）。（令和元年10月1日現在）

専攻	回答教員数	回答率(%)
数理科学科	10	100
物理科学科	12	100
知能情報システム学科	16	100
機能物質化学科	23	100
機械システム工学科	25	100
電気電子工学科	24	96.0
都市工学科	22	95.7
理工学部（合計）	132	98.5

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

理工学部評価委員会ならびに理工学部個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯，内容，方法等

- ① 平成31年3月27日
 - 学部長は，全教員に対し平成30年度活動の自己点検・評価を行い，別紙様式1，3，4を平成31年4月30日までに提出するように依頼した。
同時に，2019年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式1（2019年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。
- ② 平成31年4月11日
 - 教員活動データベースシステム全学管理責任者から，全教員に対し，教員活動データベースへの入力について依頼があった。
- ③ 令和元年5月8日 第1回理工学部評価委員会開催
 - 平成30年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - 平成30年度教員個人評価集計と分析報告書（様式）について決定した。
 - 理工学部個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法

の様式を決定した。

- 2019年度理工学部自己点検・評価スケジュールを決定した。

④ 令和元年5月13日

- 副学部長(評価担当)は、個人評価実施委員(各部門長)に、各教員から提出された平成30年度の各別紙様式(1・3・4)、「個人評価用集計シート」、「個人評価用集計ツール」、「個人業績集約の方法」、「平成30年度教員個人評価(学科)集計と分析報告書」の様式を送付し、「平成30年度教員個人評価(学科)集計と分析報告書」の作成を依頼した。(USBメモリーを手渡した。)

⑤ 令和元年5月13日

- 学部長は、個人評価実施委員に、平成30年度活動の「個人目標申告書」(別紙様式1)、教員活動データベース、ポートフォリオ学習支援統合システム評価基礎情報、及び「個人評価結果」(別紙様式3)に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、平成30年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)への記載を依頼した。

⑥ 令和元年5月31日

- 個人評価実施委員は、平成30年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4、別紙様式1・3も含む)を学部長へ報告した。

⑦ 令和元年6月1日～17日

- 学部長は、平成30年度活動の「個人目標申告書」(別紙様式1)、教員活動データベース、ポートフォリオ学習支援統合システム評価基礎情報、及び「個人評価結果」(別紙様式3)に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、個人評価実施委員が記載した平成30年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)の評価内容を確認し、必要があれば評価結果の補足等及び学部長コメントを記載した。なお、学部長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めた。また、学部長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取した。

⑧ 令和元年6月18日

- 学部長は、平成30年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)を、当該教員に封書で通知した。

⑨ 令和元年9月3日

- 副学部長(評価担当)は、平成30年度活動の個人評価結果について、各学科の集計と分析と「平成30年度教員個人評価集計と分析(学科)」への記載を依頼した。

⑩ 令和元年9月30日

- 個人評価実施委員は、「平成30年度教員個人評価集計と分析(学科)」を学部長へ報告した。

- ⑪ 令和元年 10 月 2 日
 - 副学部長（評価担当）は、理工学部の平成 30 年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。
- ⑫ 令和元年 10 月 9 日
 - 学部長は、「平成 30 年度教員個人評価集計と分析（学科）」を当該教員に通知した。
 - なお、各教員は個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後 2 週間以内に異議申立書（様式任意）を学部長に提出することとなった。
- ⑬ 令和元年 11 月 22 日
 - 学部長は、理工学部の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、理工学部評価委員会に対し、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を付託した。
- ⑭ 令和元年 11 月下旬
 - 評価委員会は、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を学部長に報告する。
- ⑮ 令和元年 12 月下旬
 - 学部長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて理工学部教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準

「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：理工学部・工学系研究科教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 理工学部・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等

理工学部教員ならびに職員が組織的に一丸となって行った教育研究活動等を以下に示す。

- 理工学部国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：平成 30 年度のパートナー機関は、台湾国立勤益科技大学（台湾），蘇州大学（中国），大邱大学（大韓民国），延世大学（大韓民国）
 - ▶ 物理学専攻，機能物質化学専攻，機械システム工学専攻の教員が参画
- 環境・エネルギー科学グローバルプログラム（PPGA）（2013 年 10 月より）
 - ▶ 外国人留学生と日本人学生が共学し，世界的な環境とエネルギー問題の解決に関する講義などの教育カリキュラムを全て英語で実施するプログラムである。
 - ▶ 前期課程プログラムは，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が，また博士後期課程プログラムは，システム創成科学専攻の化学，機械，電気電子，都市，先端融合分野の教員が参画。
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)
 - ▶ 佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程の教育プログラムで，学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである。工学系研究科博士後期課程担当の教員が参画。
- 学生の留年率，就職率，進学率の改善に対する取組み
- 佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）
 - ▶ 佐賀大学の交流協定校に所属する学生を対象とした短期留学プログラムで，日本語コース（SPACE-J：学部生および修士課程の院生が対象）と，英語コース（SPACE-E：学部生のみが対象）がある。佐賀大学での学習や研究，また日本人学生や地域の人々とのふれあいを通じて，日本社会についての知識や理解を深める。学生の受け入れや講義，自由研究を担当。
- 高等学校とのジョイントセミナーで各学科の教員が高等学校を訪問し，ミニ講義，模擬講義，大学，学部，学科紹介を実施。佐賀県立致遠館高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業において研究者招聘講座および理系ガイダンス講座を連携して実施
- 環境美化エコ活動
 - ▶ 光熱水量使用料金の抑制：平成 18 年度から使用量に応じて負担する受益者負担制度を導入，夏季および冬季の空調交互運転，エアコン,照明器具の更新に

- 当たっては省エネタイプに切り替え，夏季および冬季の節電パトロール実施
- ▶ オープンキャンパス実施前(平成30年8月8日)のキャンパスクリーンデーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）の平均値を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

学 科	職 種	学 部 (教養教育科目を含む)			大 学 院			
		担当科 目数/ 教員	担当コ マ数	卒研学 生指導 数	担当科 目数/ 教員	担当コ マ数	修士学 生指導 数	博士学 生指導 数
数理科学科	教 授	5.25	4.25	1.75	2.50	2.50	1.00	0.00
	准教授 (含講師)	5.17	5.37	3.00	3.00	3.00	1.83	0.50
物理科学科	教 授	7.00	8.20	3.40	2.80	3.40	1.80	0.20
	准教授	5.14	6.50	2.57	2.29	2.77	2.14	0.00
知能情報 システム学科	教 授	7.57	5.63	4.00	2.14	1.94	2.29	0.57
	准教授 (含講師)	4.50	4.16	3.33	1.67	1.11	2.33	0.50
	助 教	1.33	4.83	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00
機能物質化学科	教 授	8.27	7.52	3.45	6.27	6.79	4.36	0.55
	准教授	7.89	8.42	3.78	4.00	4.02	3.67	0.00
	助 教	5.67	5.67	2.33	0.00	0.00	1.00	0.00
機械システム 工学科	教 授	4.44	3.99	3.89	3.36	2.78	2.78	0.33
	准教授 (含講師)	5.15	5.83	3.46	2.23	1.68	3.23	0.15
	助 教	2.33	4.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00
電気電子工学科	教 授	3.11	2.97	5.11	5.22	4.26	5.44	0.89
	准教授 (含講師)	5.08	6.47	3.08	4.83	3.56	2.92	0.00
	助 教	3.00	4.50	1.33	0.00	0.00	0.33	0.00
都市工学科	教 授	7.11	7.49	4.33	3.78	3.47	2.89	1.89
	准教授 (含講師)	6.08	5.73	4.42	1.75	1.69	1.75	0.25
	助 教	5.00	6.50	7.00	0.00	0.00	0.00	0.00

受講生数は教務システムに登録された履修者数
 授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科
 目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

【数理科学科】

- 教授と准教授は概ね同数の科目を担当している。卒業研究や修士課程の主任指導に関しては、准教授の方が教授よりもやや多くの学生を担当しているが、これには学生の選択・希望が反映しているものと考えられる。
- 博士後期課程の主旨導の有資格者として博士課程学生を指導している准教授もいる。

【物理科学科】

- 教授、准教授ともほぼ同等の科目、学生の教育を担当している。
- 博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している教員がいる。
- 役職者については、負担の軽減をはかる措置を講じているが、実際はあまり軽減されていない。
- 専門必修科目の単位を未取得の1年生に対して、授業時間に含まれない、補習授業を学科全体で取り組み始めたので実質的な負担は増加している。

【知能情報システム学科】

- 教授は准教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。また、博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。准教授の中にも、博士後期課程の主旨導の有資格者として指導を行っている教員がいる。
- 助教は演習や実験の指導を担当している。
- 懸念事項となっていた教員間の教育負担の隔たりは、大学院において改善が見られる。改組を踏まえて、今後学部の教育負担の均等化を進めていくことが今後の課題である。

【機能物質化学科】

- 教授、准教授ともに、学士課程と博士前期課程をあわせて年間 12 科目以上、コマ数でも同程度を担当している。近年では担当科目数とコマ数がともに増加傾向にあり教員の教育負担が徐々に増加していることが解る。教授・准教授は、学生実験科目も担当しているので授業のエフォートは大きい。助教は、教授や准教授に比べると授業科目の担当数が少ないが、主に実験及び演習科目の指導を担当するとともに、主要授業科目以外の科目を担当している。また、学部長の教授の講義負担を全体で支援していることが解る。
- 博士前期課程の研究指導に関しては、准教授の方が教授よりも多くの学生を指導している。ただし、その差は1未満と少なく年度によっても異なるので、教授と准教授が同数程度の学生を指導していると思なすことが妥当であろう。助教は、4年次卒業研究着手時の配属学生数が教授や准教授よりも少ないので、学士課程の指導学生数は少ない。さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。博士後期課程に関しては、主旨導の有資格者の多くは教授であるので、教授が主に博士後期課程学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員もいる。

【機械システム工学科】

- 講義担当科目数について、学部科目は准教授が若干多く担当し、また大学院科目は教授が若干多く担当している。卒業研究および大学院の指導学生数について、教授と准教授は概ね同数を担当している。准教授においては、博士後期課程の主任指導を行っている教員もいる。
- 助教は機械工学実験Ⅰ・Ⅱ、機械工作実習Ⅰ・Ⅱ、大学入門科目（創造工学入門）などで実験・実習の指導を担当している。

【電気電子工学科】

- 学部においては、准教授は教授よりも多くの科目を担当している。大学院においては、教授は准教授よりも多くの科目を担当している。研究指導については、学部、大学院ともに教授が准教授よりも多くの学生を指導している。また、博士後期課程の主任指導はすべて教授である。
- 助教は主に学部における実験指導を担当している。年間を通じて、学生実験を含めて3科目程度の学部科目を担当している。さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っている。

【都市工学科】

- 教授は、学部、大学院ともに准教授よりも多くの科目を担当している。また、教授と准教授はほぼ同数の卒研学生を、大学院では教授が修士および博士学生ともに准教授よりも多くの教育指導を担当している。さらに、准教授の中には副指導教員となって、博士学生の実質指導を行っている教員もいる。助教は主に実験や製作指導を担当している。
- 指導する学生数は卒業研究（講師以上）で平均4.4人、修士指導（講師以上）で平均2.2人、博士主任指導（全教授と有資格の准教授）で平均1.8人である。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

【数理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 定期試験不合格者に対して再試験を行った。（教授）
- 重要事項を抽出した資料を配布した。（教授）
- 学生からの数学的質問および進路の質問を個人的に受け、相談に乗った。（准教授）
- 講義に関する多くの質問があり、それらに柔軟に対応した。また自身が学生時代に一般企業の就職活動をした経験を踏まえて、卒業研究生の就職活動に関して助言した。（准教授）
- 学生が講義時間外にも学習ができるように、毎回きちんと板書計画をたてるととも

に丁寧な板書を行って、学生にとって理解しやすくなるよう講義を進行した。(准教授)

- 学生と積極的にコミュニケーションをとり学生からの相談に応じた。(准教授)
- 講義に関する理解度を確認するため、定期的にレポートや試験を実施した。(准教授)
- 授業評価を実施した。その結果、授業の内容が十分に身に付けられていないという学生が多いということが分かったので、対応策として授業内容の補足プリントや演習解答などの授業外の学習を促す教材を充実させるように努めた。(准教授)
- 学生からの質問を授業毎に促すようにして学生が質問に来易い雰囲気作りに努めた。その結果、毎週2人か3人は研究室へ質問に来るようになり、質問に来た学生に対しては学生の理解度に応じた細かな指導が出来るようになった。(准教授)
- 授業の進行に応じて、適宜オンラインシラバスを書き直し、より正確な情報を提供した。(准教授)
- 生保数理の初歩を解説した。授業アンケートの回答から、本講義が受講者の進路を考える上で参考になったケースが窺えた。(教授)

【物理科学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- LMS を活用している(教授)。eラーニングを実施した(教授准教授)。
- 時間外学習が可能なようにテキストなど教材を作成し、学生に提供している。(教授)
- グループ学習を取り入れている。(准教授)
- シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。(教授)
- 留年生の発生を抑制するために1年時に、基礎必修科目(力学、数学)の学習到達度が低いものに対し、28・29年度に続き、学科全体でチューターが補習を行い、再試験を行った。
- 成績不振者に対して、補習、再試験を行い挽回の機会を与える科目もある。(賛否両論あるため、教員個人に判断は任されている)

【知能情報システム学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- Moodle を活用して、授業時間外学習の一助とした。(教授)
- 演習課題のオンライン化を進め、解説を記述することで分かりやすくした。(准教授)
- 毎回の小テストを通じて、内容の定着を図った。(教授、准教授)
- 実験のグループ人数を変更し、放棄者が出てグループが消滅せずに課題が進められるようにした。(助教)

- 授業中に問題を出し、解かせた。問題が解けた学生には、解答を説明させた。正解であれば、授業加点を与えることで、学生の積極性を図った。(准教授)
- 毎回の授業の最初に、授業内容の基礎知識となる内容について課題を出し、学生に発表させた。(准教授)
- ホワイトボードアプリを使い、手書きで説明することで、学生が理解しやすくなった。(准教授)
- 反転授業により、演習の円滑な進行を図った。(教授)
- ペアワークの時間を設けて主体的な学びを促している。(教授)
- 毎週、全学生からの質問を収集し、それらの中の代表的な質問、おもしろい質問に回答することを行い、学生の理解度を高めた。(教授)
- 質問票を用いて学生の理解度を逐一把握した。(教授)
- 簡易のデータベース管理ソフトウェアを利用した演習を増やし、具体的な動きを理解しやすくなるように努めた。(准教授)
- プログラミング演習課題やこれまでの試験問題の模範解答などを増やし、解説を付けて理解しやすくなるように努めた。(准教授)
- 講義ビデオの改善を行い、授業外学習時間を増やした。(教授)
- 全ての授業をビデオで録画し、講義ホームページで公開した。(准教授)

【機能物質化学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 前年度の FD 講演会を参考にして、スライドと黒板の併用を増やすためにスライド内容を削減して板書量を増やした。その結果、授業評価アンケートで例年スコアがあまりよくない設問 10 (教材関連) が少し改善された。(教授)
- e-learning の項目を増加させた。PowerPoint は動画をより多く挿入するなど、板書とは異なる表現を取り入れた。(准教授)
- 授業の最後に演習を行い、授業内容の確認を行っている。このことが、学生の成績の向上につながっている。(准教授・教授)
- 大学院の講義を英語で行い、質問することで講義に能動的に参加してもらった。(准教授)
- 講義の分かり易さを心掛けて、視覚的な理解が必要な内容についてはパワーポイントを使うなど工夫を増やした。(准教授)
- 講義の後半でミニ演習を取り入れて、講義内容の学生の理解度をはかり、不十分と思われる箇所を補足説明した。(教授)
- e-learning および LiveCampus を利用した課題提供を継続している。教育理念に基づいた教育方法や成績評価方法等の説明をきちんと行い、質問や相談に対する対応を丁寧にした。(准教授)

【機械システム工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 毎回大切な定理の証明を学生に実行させた。その結果、学生たちは、高校数学の重要性を再認識させることに成功した。
- テキストでは省略されている式の導出過程や背景となる基礎知識等についても説明するなど、わかりやすい講義とするよう努めた。
- 講義や教科書で得られた知識に留まらず、実験を通しての体験を伴った知識として獲得できるように配慮して各実験テーマが選定した。
- 実験の際、参考書を確認しつつ、観察結果や実験データを検証させ、講義への理解を深めた。
- 高等学校で修学した内容の復習をかねて解説し、理解の深化に努めた。
- 重要なところはスライド形式で講義するとともに、印刷した資料を配布し、理解深化に努めた。
- 実験で得られたデータからグラフ化する作業に重点をおいた。理論値と実験値の違いについて、深く考察できる内容にした。
- 講義中に学生の反応を見ながら、理解に困難を伴っていそうな箇所では、補足の説明や数式を書き込むなどし、理解の深化に努めた。
- 各授業で演習を取り入れ、一方的に話を聞く状態にならないようにした。
- 講義の最後に、その日の講義中で最も重要な項目について小テストを行った。また、次の講義の冒頭に前回行った小テストを返却し、解答を示しながら解説を行った。
- 演習問題について、典型的パターンを網羅するように問題を選定し、詳細な解説を行いポイントを明確にした。
- 中間試験を行い、前半の内容の修得度を確認し、後半の範囲の学習に集中できるようにした。
- 演習科目との連携による効果的な授業を心掛けた。
- アクティブラーニングの一環として演習する時間を増やした。
- 授業内容に対する理解を深め、学習効果を高めるために、適宜に演習を課すること
期末試験のほかにも中間試験等を実施した。
- 受講生に事前に調査させた課題について、KJ 法的な手法で整理、解説する授業を導入し、アクティブラーニングの要素も高めた授業を行った。
- 講義中に公式の物理的な意味がわかるように、実践的な練習問題の量を増やした。
- 厳選した演習問題をレポートとして毎回課すことで、予習復習をする学習姿勢を身に
着けさせるよう心掛けた。
- 意欲が低い学生へ配慮し、講義の合間に復習を取り入れた。
- 実例に近い問題をモデル化した演習問題を授業中に課すことで、興味をもって問題
に取り組めるよう、さらに机上の学問の応用法について理解できるよう配慮した。
- 基本原理の説明に加え適宜演習を挟みながら講義を行い、内容の十分な理解と修得

を目指した。

- パワーポイントを使用して式などがわかりやすいよう配慮した講義を実施した。
- パワーポイントを用いて講義を行ったが、重要な項目については、その重要度に応じて文字の色、フォントなどを変えることで視覚的にも訴えた。
- 適宜ビデオや映像などを用いることで重要な点を明確にした。

【電気電子工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 教材や ICT 環境の利用 (准教授)
- 講義資料の Web ページを立ち上げ (教授)
- 実験の報告書に見本・サンプルを用意 (准教授)
- ICT 機器を活用した双方向性の授業 (准教授)
- 電子掲示板による授業の感想の投稿 (准教授)
- 身近にある技術を取り上げ、興味を持ってもらえるように講義を進めた (准教授)
- 座席の指定 (教授)
- 過去の試験問題の提供 (教授)
- 演習問題を宿題として提供 (教授)
- デモ実演による理解の促進 (教授)
- 英語による授業の実施 (教授)

【都市工学科】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 問題を抱える学生に対し、ソーシャルワーカーの協力を仰ぎ面談を実施した。(助教)
- 外国人教員として、留学生の研究・教育および進路の相談を行うことで、留学生の質的向上に努めた。(准教授)
- Live Campus 上に毎週講義後にアンケートを設定し、授業内容に関して学生とのインタラクションでの対話を行なった。(准教授)
- 他大学の教員との共同研究に学部四年生を参加させ、学生自ら研究方法等を考え、実効し、他大学の教員からの評価を得た。(准教授)
- 学生自身による理解度チェックを導入し、理解度の向上に資する取り組みを行った。また、小テストや e-ラーニングを活用しながら、授業を行った。(准教授)
- 講義や実験で TA (日本人および留学生) を採用し、教育効果を高めるようにした。(教授、准教授)
- 講義プリントを随時ホームページ上で更新し、全回にわたって備忘録を作成、板書を全て撮影・記録することによって来年度への改善の資料とした。(教授)
- 学生の氏名をできるだけ覚えることにより、学生個々の特性を把握し、特に学業不振の学生あるいはその恐れのある学生についてのケアをなるべく早い時期から行っ

た。(教授)

- 授業の欠席が多く面談等にも訪れない学生には、直接電話連絡、もしくは保護者に連絡するなどできるだけ早めの対応に心掛け、適切な対処法を実施した。(准教授)
- 授業の最終回の授業時間内に、アンケート回答時間を設け、授業評価アンケートの回答率をあげた。それらをもとに、次年度の授業改善に取り組む。(准教授)
- ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップに参加して標準版 TP を作成するとともに、学生による授業評価結果なども利用して教育の質の向上に努めた。(准教授)
- 学生の英語リスニング能力を高める為に講義は英語のみで行った。平成 31 年 1 月の TOEIC-IP テスト、クラスの平均スコアは 438 点(リスニング 249 点、リーディング 189 点)であり、全国の理・工・農学系大学 1 年生の平均スコア(427 点)より上回った。(准教授)
- 教育に関する FD・SD 研修会等に積極的に参加するとともに、学生による授業評価結果なども利用して教育の質の向上に努めた。(教授、准教授)
- 設計コンペ等の成果をもとに就職用ポートフォリオを作成させた。(教授)

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FD について、理工学部各学科の教員は学科内での FD 活動の他、次の活動を行っている。

【数理科学科】

- 理工学部 FD 講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」(教授)
- データサイエンス教育 FD 研修会(2)「滋賀大学におけるデータサイエンス教育の取り組みについて」(教授、准教授)

【物理科学科】

- 全員が簡易版ティーチングポートフォリオ(TP)を作成しており、一部の教員が標準版 TP を作成している。
- 理工学部 FD 講演会に参加した(教授、准教授)。
- 大学が開催する FD 講演会(科研費獲得、データサイエンス、プロジェクト型学習など)に参加した(教授、准教授)。
- 韓国延世大学とのパートナーシッププログラムにおいて中心的な役割を果たし、大学院生向けに講義を行うとともに、参加者と学術交流をはかった(准教授)。

【知能情報システム学科】

- 理工学部 FD 講演会への参加(教授)
- 佐賀大学 FD・SD 講演会への参加(教授、助教)
- 佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ作成 WS への参加(教授)
- データサイエンス教育 FD 研修会への参加(教授、准教授、助教)
- プロジェクト型学習の講演会への参加(教授)

【機能物質化学科】

- 佐賀大学 FD・SD 講演会「主体性を育むプロジェクト型学習におけるお題設定とは？～楽しみながら課題解決を目指す「ソーシャルアクション」の可能性～」(長崎大学大学教育イノベーションセンター准教授 成瀬尚志 氏)
- 理工学部FD講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」(電気電子工学科 高 炎輝 助教, 電気電子工学科 松田吉隆 助教, 機械システム工学科 只野裕一 准教授)
- データサイエンス教育 FD 研修会(1)「大阪大学における数理・データサイエンス教育強化の取組について」(大阪大学 数理・データ科学教育研究センター特任教授、副センター長 鈴木 貴 氏)
- データサイエンス教育 FD 研修会(2)「滋賀大学におけるデータサイエンス教育の取り組みについて」(滋賀大学データサイエンス学部 教授・副学部長 笛田 薫 氏)
- JABEE 継続のためのワーキンググループ
- 第1回科研費獲得に向けたFD講演会
- 第2回科研費獲得に向けたFD講演会
- ティーチング・アシスタントの事前研修及び指導を実施
- ラーニング・ポートフォリオ等による学生の学修状況の把握、学修相談への対応及び指導・助言を実施
- オフィスアワー等による学生からの学修相談への対応及び指導・助言を実施

【機械システム工学科】

- 専攻・学科内に設置した教務・JABEE グループによる JABEE 基準適合対応, 学部および大学院の教務関連事項の検討
- 学部 FD 講演会への参加
- 地域連携実践キャリア教育において, 地域企業の方の講演を聴講することによる地域への理解促進などが報告されている。

【電気電子工学科】

学科独自の FD 活動：

- 電気電子工学科教員による授業参観の実施 (教授, 准教授, 助教)

学部の FD 活動：

- 理工学部FD講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」(教授, 准教授, 助教)

全学向け講演会・講習会：

- 平成 29 年度佐賀大ダイバーシティー推進 FD・SD講演会 (教授)
- 第1回科研費獲得に向けたFD講演会『科研費申請と真摯に向き合う』(教授, 准教授)
- 第2回科研費獲得に向けたFD講演会『時、来たれり！～『平成』最後の科研費採

択通知書を勝ち取るために～』（教授、准教授）

- ・ 「主体性を育むプロジェクト型学習におけるお題設定とは？～楽しみながら課題解決を目指す「ソーシャルアクション」の可能性～」（教授、准教授）
- ・ データサイエンス教育 FD 研修会(1)「大阪大学における数理・データサイエンス教育強化の取組について」（教授、准教授、助教）
- ・ データサイエンス教育 FD 研修会(2)「滋賀大学におけるデータサイエンス教育の取り組みについて」（教授、准教授、助教）
- ・ 公正な研究活動の推進に関する F D 講演会『SDGs とブダペスト宣言と 21 世紀の科学技術』（教授、准教授、助教）
- ・ キャリアセンターの就職支援（教授、准教授）
- ・ 物理・数学を理解し、特許を取って、新商品を世界に発信しよう！（教授、准教授）
- ・ ICT 活用教育実践に伴う著作権（准教授）
- ・ 知っておきたい大学における知的財産権（准教授）
- ・ 平成 30 年度情報セキュリティ SD 講習会「情報セキュリティ講習会～標的型攻撃メール対応訓練フォローアップ～」（准教授、助教）
- ・ 文科省大臣官房政策課長による講演会（准教授）
- ・ COC+シンポジウム 2018「インターンシップと地元定着」（准教授）
- ・ 世界とともに発展する SAGAN グローバル人材育成事業（教授）
- ・ LGBT に大学ができること～すべての人が住みよい佐賀を目指して～（教授）
- ・ 協同学習を基調にしたアクティブ・ラーニング型の授業づくり（教授）
- ・ 働き方改革関連法等の概要（教授）
- ・ 動物実験及び遺伝子組換え実験に関する FD・SD 研修会（准教授）

ティーチング・ポートフォリオ関係：

- ・ 佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（准教授、助教）
- ・ 簡易版ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（教授、准教授）

県内および全国レベルの教育研修：

- ・ 大学電気系教員協議会（教授、准教授）

【都市工学科】

- ・ 専攻内での FD 活動の他、理工学部 FD 報告会（教授、准教授）、佐賀大学 FD/SD セミナー（准教授）への参加が報告されていた。

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、理工学部内の全ての教員が行っている。学科ごとの相談内容については、以下のとおりである。

【数理科学科】

- ・ 相談内容は学習方法や将来の進路に関するものが多い。（教授、准教授）

【物理科学科】

- ・ 成績不振者を学科全体で把握しチューターを中心に、学生（時には両親）と面接するなど、学生の学習体制の改善をはかり、留年率を下げるための努力に取り組んでいる。
- ・ 進路不明者を出さないために、指導教員を中心に就職担当と協力し学生の就職、進学支援を行っている。
- ・ 学生のオフィスアワーでの相談率は1割程度と低く、オフィスアワー制度があまり有効に機能していないように思える。ただ、大半はオフィスアワー以外での訪問をしている。

【知能情報システム学科】

- ・ 相談内容は研究や授業内容への質問や相談、履修に関することや進路に関する相談が多い。（教授、准教授）

【機能物質化学科】

- ・ オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- ・ 学生からのメールによる相談についても対応している。
- ・ 毎学期毎に担当学生全員に対し、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター面談を実施している。
- ・ 学生の訪問・相談は、専攻主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- ・ 授業に関する質問が最も多く、その他履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談など多岐にわたる。

【機械システム工学科】

- ・ 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活相談を実施している。

【電気電子工学科】

- ・ 各教員ともオフィスアワーを設定しているが、オフィスアワー以外についても多くの教員が時間を割いて対応している。（全教員）
- ・ 相談内容は学習や進路相談に関するものが多い。（全教員）
- ・ 卒研究生や大学院生については、指導教員が相談担当の役割を果たしている。

【都市工学科】

- ・ 各教員が設定した時間帯はもちろん、研究室学生については、適宜全教員が行っている。
- ・ 相談内容は学修相談や生活相談に関するものが多い。（教授、准教授）

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学科】

- International Conference on Information Technology : New Generationsにて発表した大学院生（博士後期課程）が Student Best Paper Award を受賞した。（指導教員：教授）
- 情報処理学会 情報教育シンポジウムで発表した大学院生（博士前期課程）が学生奨励賞を受賞した。（指導教員：准教授）
- 教育システム情報学会学生研究発表会で発表した学部生（四年生）が優秀発表賞を受賞した。（指導教員：教授）

【機能物質化学科】

- 第 55 回化学関連支部合同九州大会電気化学会九州支部
優秀研究発表賞（指導教員：教授）
- 第 55 回化学関連支部合同九州大会電気化学会九州支部
優秀研究発表賞（指導教員：教授）
- 第 55 回化学関連支部合同九州大会電気化学会九州支部
優秀研究発表賞（指導教員：教授）
- トークシャワー・イン・九州 2018 電気化学会九州支部
ポスター発表賞（指導教員：教授）
- 第 64 回ポーラログラフイーおよび電気分析化学討論会 日本ポーラログラフ学会
優秀研究発表賞（ポスター発表部門）（指導教員：教授）
- 第 64 回ポーラログラフイーおよび電気分析化学討論会 日本ポーラログラフ学会
優秀研究発表賞（ポスター発表部門）（指導教員：教授）
- 第 37 回分子病理学研究会 分子病理学研究会
優秀演題賞（ポスター賞）（指導教員：准教授）
- 第 29 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会
優秀ポスター賞（指導教員：准教授）
- 化学工学会第 50 回秋季大会材料・界面部会シンポジウム 化学工学会材料界面部会
優秀ポスター賞（指導教員：准教授）
- 2018 年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会
優秀講演賞（指導教員：准教授）
- The 31st International Symposium on Chemical Engineering (ISChE2018)
Best Poster Presentation Award（指導教員：准教授）
- 学長賞 佐賀大学（指導教員：准教授）
- トビタテ！留学ジャパンによる M1 学生のリアル大学への研究留学（指導教員：教授）
- 国際交流プログラムによるドレスデン工科大学への学生派遣（教授）

【機械システム工学科】

- 日本機械学会 島山賞
- 日本機械学会 三浦賞
- 日本設計工学会 武藤栄次賞
- 日本熱物性学会賞 論文賞
- 計測自動制御学会九州支部学術講演会学生発表交流会最優秀発表賞
- 計測自動制御学会九州支部奨励賞
- 日本機械学会 九州学生会第 50 回学生員卒業研究発表講演会優秀講演賞

【電気電子工学科】

- 平成 29 年 電子・情報・システム部門 研究会奨励賞（指導教員：教授、准教授）
- 平成 30 年度電子情報通信学会九州支部講演奨励賞（指導教員：准教授）
- 平成 30 年度電子情報通信学会九州支部連合大会講演奨励賞（指導教員：教授、准教授）
- 2018 年 IEEE 福岡支部学生研究奨励賞（2 名）（指導教員：教授、准教授）
- 映像情報メディア学会優秀研究発表賞（指導教員：教授、准教授）
- 平成 30 年佐賀大学学長賞（2 名）（指導教員：教授）
- 平成 30 年度電気学会九州支部長賞（指導教員：准教授）
- 電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞（指導教員：教授）

【都市工学科】

- 平成 30 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞に都市工学科より 2 名の 4 年生、都市工学専攻より 1 名の修士課程学生が選ばれて受賞した。
- 2018 年度 日本コンクリート工学会 九州支部長賞に都市工学科より 1 名の学生が選ばれて受賞した。
- 新「木造の家」設計コンペの最優秀賞および林野庁長官賞として都市工学専攻より 2 名の修士課程学生、優秀賞に都市工学専攻より 2 名の修士課程学生、1 名の博士課程学生が選ばれて受賞した。
- 2018 年度日本建築学会九州支部 支部長賞に都市工学科より 1 名の学生が選ばれて受賞した。
- 空気調和・衛生工学会振興賞学生賞に都市工学科より 1 名の学生が選ばれて受賞した。
- 2018 年度日本都市計画学会九州支部支部長賞に都市工学科より 1 名の学生が選ばれて受賞した。
- 都市住宅学会九州支部 2018 年度優秀学生賞に都市工学科より 1 名の学生、都市工学専攻より 1 名の修士課程学生が選ばれて受賞した。
- 平成 30 年度地盤工学会九州支部優良学生賞に都市工学科より 2 名の学生が選ばれて受賞した。

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（H26.4.1～H31.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表3.2に示す。

表 3.2 過去5年間（H26.4.1～H31.3.31）の発著書，論文等の発表実績平均値

学科	職 種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学科	教 授	0.00	6.75	6.50	0.00	0.00	6.00	5.75
	准教授 (含講師)	0.17	2.50	2.50	0.17	0.17	2.33	2.33
物理科学科	教 授	0.00	7.40	7.20	0.40	0.40	7.00	6.80
	准教授	0.29	65.6	65.1	0.29	0.14	65.3	65.0
知能情報 システム学科	教 授	2.00	12.1	11.3	2.14	1.29	9.14	9.14
	准教授 (含講師)	0.33	14.2	13.3	2.83	2.00	11.34	11.33
	助 教	0.00	2.7	2.7	0.00	0.00	2.67	2.67
機能物質化学 学科	教 授	1.18	15.00	14.73	0.91	0.64	14.09	14.09
	准教授	1.67	13.67	12.89	0.89	0.33	12.67	12.67
	助 教	0.00	6.67	6.67	0.00	0.00	6.67	6.67
機械システム 工学科	教 授	0.89	19.78	19.78	0.56	0.56	19.22	19.22
	准教授 (含講師)	0.38	13.31	12.00	4.00	2.69	9.69	9.69
	助 教	0.00	3.67	3.33	0.33	0.00	3.33	3.33
電気電子工学科	教 授	0.67	22.33	21.89	3.33	2.89	19.00	19.00
	准教授 (含講師)	0.25	17.08	11.00	3.42	2.08	8.92	8.92
	助 教	0.33	18.00	18.00	1.67	1.67	16.00	16.00
都市工学科	教 授	0.56	20.33	16.00	4.78	3.22	15.56	12.78
	准教授 (含講師)	0.92	10.83	6.83	7.67	3.67	3.25	3.25
	助 教	0.00	11.00	11.00	3.00	3.00	8.00	8.00

【数理科学科】

- 教授の研究活動は、平均的に見てかなり良好である。
- 准教授の研究活動は、平均的に見て良好である。

【物理科学科】

- 教授の研究活動は個人差があるが、平均として良好な水準にある。
- 准教授の研究活動には大きな個人差があるが、高いアクティビティを示している。特に、准教授一名の大型共同研究論文（400 編）が論文数を押し上げている。

【知能情報システム学科】

- 教授の研究活動は、非常に活発に原著論文での研究成果公表行っており、原著論文は和文よりも英文で記述していることが読み取れる。
- 准教授の研究活動は、非常に活発で、教授と同等ないしは上回る成果を示している。
- 和文での著作物は原著論文ではなく、国内学会予稿集、研究報告、総説等の査読のないものが見られる。
- 助教の研究活動は、1 名を除いて残念ながら低調であり、今後の改善が必要である。

【機能物質化学科】

- 教授の研究活動は良好である。従来よりも教育の負担が増加しているにも関わらずに平均して研究活動が活発である。
- 准教授の研究活動はとても良好である。准教授の教育負担は確実に増加しているが審査付論文に約 13 報（5 年間）を報告している。
- 助教の研究活動は普通である。査付論文に約 7 報（5 年間）を報告している

いずれの教員も審査付国際論文への投稿がほとんどである。和文の論文は学会などから依頼された総説類と推察され、和文論文でも国内学会にはそれなりの貢献を果たしていると考えられる。昨年度と同様に本年度も准教授の論文数が教授よりも高く、研究活動多が高いレベルで維持されていることが判断できる。

【機械システム工学科】

- 教授，准教授・講師，助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。昨年度と比較すると，特に准教授の精力的な研究活動が伺える。

【電気電子工学科】

- 教授の研究活動は博士後期課程学生の博士号認定資格を維持している。論文総数の平均は約 4.5 編／年であり、その 85.1%は英文論文であり、また英文論文のすべてが査読付きの業績であることから、質の高い研究成果を発表していると評価できる。
- 准教授の研究活動は博士前期課程学生の修士号認定資格を維持している。論文総数の平均は約 3.4 編／年である。教員により論文の発表実績のばらつきが大きい。
- 助教の研究活動は博士前期課程学生の指導資格を概ね維持している。論文総数の平均は約 3.6 編／年であり、すべて査読付きであるとともに、88.9%が英語原著論文である。教員により論文の発表実績のばらつきが大きい。

【都市工学科】

- 教授の研究活動は著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、この表に示していないが、論文数の個人差が大きく、博士後期課程の指導学生数が多い教員に査読付き論文数が集中し、逆に博士後期課程学生のいない教員は留学生受け入れにも関係し、英文原著論文数よりも和文原著論文数がやや多い傾向にある。
- 准教授の研究活動は和文の論文数で教授を上回っている。ただし、この表に示していないが、論文数では個人差が大きい。
- 助教の研究活動は、総論文数と英文原著論文は准教授を上回っている。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理科学科】

- 他大学の研究者との共同研究（教授、准教授）
- 共同利用・共同研究システムへの参画（教授）

【物理科学科】

- 国際リニアコライダー計画の共同研究（教授、准教授）
- 九州大学との共同研究（教授、准教授）
- 産総研との共同研究（教授）
- 理化学研究所との共同研究（教授）
- 佐賀大シンクロトンでの共同研究（教授、准教授）

【知能情報システム学科】

- 国立研究機関（JAXA、国立環境研究所、科学技術振興機構など）からの委託研究（教授、助教）
- 農林水産省委託プロジェクト研究（教授）
- 産業技術総合研究所との共同研究（教授）
- 他研究機関との科研費関連のプロジェクト（教授、准教授、助教）
- 民間企業との共同研究（教授、准教授、助教）
- 東京工業大学との共同研究（教授）
- 神戸大学との共同研究（准教授）
- 熊本高等専門学校との共同研究（教授、准教授）
- 佐賀大学教育学部との共同研究（准教授）

【機能物質化学科】

- 科学研究費補助金に新規・継続合わせて13件が採択された（教授・准教授・助教）
- 民間企業や産業技術総合研究所等との共同・受託研究や寄附金が20件ある
- NEDOとJSTの採択が5件ある
- 佐賀県産業技術センター（教授・准教授）
- 産総研九州センター（教授・准教授）

- 九州大学（教授）
- 岡山大学（教授）
- 筑波大学（教授）
- グルノーブル大学（教授）
- スラバヤ工科大学（教授）
- ガジャ・マダ大学（教授）
- ガンジーグラムルーラル大学（教授）
- ドレスデン工科大学（教授）
- 大邱大学（教授・准教授）
- 遼寧大学（教授・准教授）
- リール大学（教授・准教授）
- シラキューズ大学（教授）
- オクラホマ州立大学（教授）
- ブルゴーニュ大学（准教授）
- イースト・アングリア大学（准教授）
- RMIT 大学（教授）
- 蘇州大学（教授・准教授）
- 日本原子力研究開発（教授）
- 民間企業（教授・准教授）

【機械システム工学科】

- 国，独立法人，民間等からの受託研究（教授，准教授）
- 民間との共同研究（教授，准教授，助教）
- 海外の大学との共同研究（教授，准教授）
- 民間，財団法人等からの教育研究助成（教授，准教授，助教）

【電気電子工学科】

- 民間企業との共同研究（教授、准教授、助教）
- 産総研との共同研究（教授）
- 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所との共同研究（助教）
- 佐賀県との共同事業（教授）
- 民間企業からの受託研究（助教）
- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構からの受託研究（教授）
- 国立研究開発法人科学技術振興機構からの受託研究（教授）
- 国立大学法人名古屋大学からの受託研究（教授）

【都市工学科】

- 防災科研，高知大学，民間企業による防災技術に関する研究プロジェクトを実施した。（准教授）

- プロジェクト研究所「地域防災技術研究所」の所長およびメンバーとして、学内横断的な研究プロジェクトを実施した。（教授、准教授）
- 大学間の横断的な研究プロジェクトとして、文部科学省の気候変動適応技術社会実装プログラム（SI-CAT）および、佐賀大学を中心とする「有明海地域共同観測プロジェクト（COMPAS）」に参画して、共同研究を実施した。（准教授）
- ICT 防災まちづくりデザイン研究所の所長として、学部間・学科間・産官学の研究プロジェクトを主宰した。（教授）
- 学外のプロジェクト「SAGA 健康・省エネ住宅推進事業」を医学部教授および民間企業とともに実施している。（教授）
- JR 肥前浜駅交流拠点施設広場整備プロジェクトに他分野の教員や九州大学・熊本大学の教員と連携して携わり、計画をとりまとめた。（准教授）
- 佐賀県内の（株）協和製作所との共同研究「無動力式自動ゲートの水理に係る研究」を実施している。（教授、准教授）
- 佐賀大学プロジェクト研究所「国際在来知歴史学研究所」にて他分野の研究者と共同研究を実施した。（教授、准教授）
- 北京工業大学（中国）との共同研究に向けた検討を行った。（教授、准教授）
- 民間企業と、浚渫土の活用に関する共同研究，ならびに地盤の維持管理技術の開発に関する共同研究を実施した。（准教授）
- コンサルタント会社からの奨学寄附金（間接経費含む）を受け入れ，共同的な研究作業を実施した。（教授）
- カセサート大学工学部環境工学科の教員及び学生とタイの都市水環境に関する共同研究を継続的に実施している。（准教授）
- 長崎大学、企業（4件）等の受託・共同研究を実施した。（教授）
- 陶磁器関連企業からの産廃物の有効利用に関する研究で共同研究（（有）福嶋窯材）を行った。（講師）
- 協和製作所との共同研究を実施した。（教授）
- 鹿島市・嬉野市より受け入れた共同研究を研究代表者として実施した。（教授）
- 佐賀県からの受託研究を受けた。（教授）
- 科研費基盤研究（B）代表として採択された。（教授）
- 科研費基盤研究（C）代表として採択された。（教授、准教授）
- 科研費基盤研究（C）（一般）の分担者として東北大学と共同研究を行っている。（准教授）
- 科研費若手研究（B）代表として採択された。（准教授）
- 河川財団、一般社団法人九州地方計画協会への競争的資金に応募し、研究費を獲得した。（教授、准教授）

3.2.3. 受賞等の実績

教員の指導による学生の受賞等は、3.1.5に記載している。

【知能情報システム学科】

- 佐賀県・県政功労者知事表彰受賞（教授）
- 「電波の日」九州総合通信局長表彰（教授）
- 第17回情報科学技術フォーラムにおいて FIT 船井ベストペーパー賞を受賞(助教)
- 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の福祉機器コンテスト 2018 において優秀賞を受賞（准教授）

【機能物質化学科】

- 日本画像学会コニカミノルタ科学振興財団 研究奨励賞（准教授）
- 平成30年度日本イオン交換学会 学術賞（教授）

【機械システム工学科】

- 日本熱物性学会 論文賞（教授、准教授）
- Best Poster Presentation Award（教授）
- 全国発明表彰21世紀発明奨励賞（教授）

【電気電子工学科】

- 表面真空学会九州支部講演奨励賞（教授）
- The Best Poster Award, IEEE INTERMAG 2018 Conference（教授）
- AWARD of ASEMD 2018 Best Presentation, IEEE ASEMD 2018 Conference（教授）
- 電子・情報・システム部門 技術委員会奨励賞（准教授）
- 平成29年電子・情報・システム部門 研究会奨励賞（教授）
- 映像情報メディア学会優秀研究発表賞（教授）
- 電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞（教授）
- 平成30年度連合大会講演奨励賞（教授）
- 2018年IEEE福岡支部学生研究奨励賞（第18回）（教授）
- 日本知能情報ファジィ学会九州支部年次貢献賞（准教授）
- 2018年度計測自動制御学会著述賞（助教）

【都市工学科】

- 国土技術開発賞20周年記念 創意開発技術大賞（教授）

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理科学科】

- 国際研究集会での講演（教授、准教授）
- 国外の研究者との共同研究（教授、准教授）

【物理科学科】

- 理工学部国際パートナーシップ開催（教授、准教授）
- SPACE-E 留学生受け入れ（教授）
- 海外共同研究者の招聘（教授、准教授）
- 共同研究のための渡航（教授、准教授）
- 海外でのシンポジウム、ワークショップでの講演・参加（教授、准教授）

【知能情報システム学科】

- 短期、長期の留学生受け入れ（教授、准教授）
- フランスブルゴーニュ大学との連携（教授）
- ベトナム UIT 大学, SCIENCE 大学との連携（教授）

【機能物質化学科】

- 第1期 JST さくらサイエンスプランによるガンジーグラムルーラル大学（インド）ならびにスラバヤ工科大学（インドネシア）から学生招聘（教授）
- 第2期 JST さくらサイエンスプランによるスラバヤ工科大学（インドネシア）とカリマンタン工科大学（インドネシア）から学生招聘（教授）
- サンドイッチプログラムによるガジャ・マダ大学（インドネシア）から特別研究学生の受入（教授）
- ガジャ・マダ大学（インドネシア）の研究者との共著論文（教授）
- スラバヤ工科大学（インドネシア）の研究者との共著論文（教授）
- PPGA 国費による留学生（インドネシア）の受入（教授）
- スラバヤ工科大学（インドネシア）での招待講演（教授）
- グルノーブル大学（フランス）、筑波大学、岡山大学、佐賀大学による共著執筆（教授）
- 蘇州大学、大邱大学との交流（教授・准教授）
- ドレスデン工科大学（ドイツ）での講演（教授）
- ドレスデン工科大学（ドイツ）からの学生の受入（教授）
- カジャマダ大学（インドネシア）での招待講演（教授）
- ガジャ・マダ大学（インドネシア）の研究者との共著論文（教授）
- ジャイカプログラムのリーダーシップフォーラムの参加（教授）
- 遼寧大学-佐賀大学国際パートナーシッププログラムの参加と招待講演（教授・准教授）
- リール大学（フランス）の研究者との共著論文（教授）
- JSPS 海外研究者招聘事業によるオクラホマ州立大学（米国）の研究者の招聘（准教授）
- オクラホマ州立大学（米国）の研究者との共著論文（教授）
- リール大学等（フランス）の研究者との共著論文（教授）

- シラキュース大学（米国）と BioTools 社の研究者の招聘（教授）
- ノースイースタン大学の研究者の招聘（教授）
- RMIT 大学（豪州）の学生の受入（教授）
- MOU 締結準備のためのホーチミン大学（ベトナム）訪問（教授）
- 国際研究者交流事業によるブルゴーニュ大学（フランス）の訪問（准教授）
- SPACE-E による釜慶大学（韓国）からの学生の受入れ（准教授）
- イースト・アングリア大学（英国）との共同研究（准教授）
- 国際学会や国際セミナーでの招待講演や発表（教授・准教授）

【機械システム工学科】

- 国際学会、会議の運営委員、実行委員など（教授）
- 海外研究者や留学生の受け入れ（教授）
- 海外大学や研究所の訪問、特別講義（教授）
- SPACE-E 留学生の受け入れ（教授、准教授）
- インターンシップ留学生の受け入れ（准教授）
- STEPS 海外研修（准教授）
- 国際会議における招待講演、発表等（教授、准教授、助教）

【電気電子工学科】

- 2019 11th International Conference on Machine Learning and Computing（准教授）
- the 2018 International Conference on Security and Management (SAM'18)（准教授）
- 2018 Asia-Pacific Microwave Conference（准教授）
- IEEE APS（准教授）
- IEEE International Workshop on Electromagnetics（准教授）
- IEEE 7th Asia-Pacific Conference on Antennas and Propagation（准教授）
- IEEE International Workshop on Electromagnetics: Applications and Student Innovation Competition（准教授）
- 24th International Symposium on Artificial Life and Robotics（准教授）
- 電磁界の数値解析に関する国際会議（IEEE CEFC 2018）（教授）
- International Compumag Society, Board Meeting（教授）
- European Microwave Association (EuMA) GA ミーティング参加（教授）
- European Microwave Week 2018 (EuMW2018) TPC ミーティング参加（教授）
- European Microwave Association (EuMA) GA ミーティング参加（教授）
- European Microwave Week 2018 (EuMW2018)参加（教授）
- Asia-Pacific Microwave Conference (APMC2018)参加（教授）
- Leadership Forum（教授）

- 国際パートナーシップ教育プログラム（教授、准教授）
- PPGA 国際協働セミナー及び共同研究（教授）

【都市工学科】

- 北京工業大学（中国）との大学間学術交流を促進するために、北京工業大学から2名の教授を本学に招聘するとともに、都市工教員2名が北京工業大学に1か月間滞在し、研究者間の交流を行い、今後の研究交流を話し合った。（教授、准教授）
- 世界の低平地の水問題を取り上げた講演会を主催し、エジプトの低平地における水環境問題について情報発信した。（准教授）
- **International Symposium on Lowland Technology 2018** の座長を務めた。（教授、准教授）
- 東南アジアの都市水環境に関する共同研究を通じてタイのカセサート大学の教員と継続的に交流を行った。（准教授）
- インドネシア・マカッサルのハサヌディン大学で **Special Lecture** を行った。（准教授）
- 佐賀大学国際研究者交流事業に参画し、インドネシア・スラヴェシ島内の3大学（ハサヌディン大学、タドゥラコ大学、サムラトランギ大学）との交流を進めた。（教授、准教授）
- アジアハウジングワークショップ2018『神楽坂に暮らす -暮らしに馴染む集合住宅のあり方-』に佐賀大学3年生6名の学生を引率、指導教員としてグループを担当した。日本女子大学、台湾・淡江大学、中国・天津大学、3カ国が参加。（准教授）
- 韓国のカンドン大学にて特別講義を行った。（准教授）
- 東日本大震災や復興関連の活動、韓国農村建築学会との研究交流会に参画した。（准教授）
- JASSO の支援を受けて、環アジア国際セミナーを実施し、韓国、タイ、カザフスタン、ミャンマー、オーストリアの学生を受け入れた。（教授）
- 海外大学（カセサート大学（タイ））との共同研究（准教授）
- 国際課が主催する活動（異文化適応ワークショップ、ホームカミングデーin インドネシア、インドネシア大学訪問）に協力した。（講師）
- 佐賀大学協定校（チュイロイ大学（ベトナム）、ハサヌディン大学（インドネシア）、サムラトランギ大学（インドネシア））と交流を実施した。（講師）
- 中国同済大学で大学院生との国際セミナーを共同開催した。（教授）
- 中国温州大学、上海交通大学との共同研究を実施した。（教授）
- 国際ジャーナル誌の編集委員会委員長や委員として活動した。（教授）
- 実行委員長として、第8回在来知歴史学に関する国際シンポジウム、および日韓危機管理セミナー&ワークショップを主催した。（教授）
- サムラトランギ大学（インドネシア）、ランブングマンクラット大学（インドネシ

ア) および UTHM (マレーシア) を 3 月に訪問し、講義や現地視察、共同研究などの交流を行った。(教授)

- 国際パートナーシップ教育プログラムによって、大学院生の指導を行った。(教授)
- 環アジア国際セミナー2018 を開催し、佐賀大学 4 年生・院生、タマサート大学・チェンマイ大学(タイ)・韓国交通大学校(韓国)・カザフ高等建築アカデミー(カザフスタン)・アイントホーフエン工科大学(オランダ)・ウィーン工科大学(オーストリア) から教員 7 名・学生 71 名を招聘した。(教授, 准教授, 助教)
- JST さくらサイエンスプランに応募し採択され, 主担当者として中国浙江理工大学との国際交流を行った。(准教授)

3.3.2. 社会貢献実績

【数理科学科】

- 学会論文査読委員(教授、准教授)
- アメリカ数学会レビューアー(教授)
- ジョイントセミナー(教授、准教授)
- 夢ナビライブ 夢ナビTALK(准教授)
- 長崎県高等学校・特別支援学校教育研究会数学部会での講演(教授)
- 高等学校教諭との交流会の主催および出席(教授、准教授)

【物理科学科】

- 論文査読委員(教授、准教授)
- 学会論文誌編集委員(教授、准教授)
- 九州高等学校理科学研究発表大会審査委員(教授、准教授)
- 高大連携、ジョイントセミナーでの出前授業(教授、准教授)
- サイエンスカフェでの一般向け講演(准教授)
- 筑波大学のアドバイザー委員(教授)
- 佐賀経済同友会例会セミナーでの講師(准教授)
- 鳥栖市教育委員会教育委員(教授)

【知能情報システム学科】

- 学会役員(教授)
- 協会等理事(教授)
- 学会等運営委員(教授、准教授)
- 学会招待講演(准教授)
- 学術委員会等委員(教授、准教授)
- 学術論文誌査読委員(教授、准教授)
- 国際会議実行委員(教授、准教授)
- シンポジウム・説明会等講師(教授)

- ジョイントセミナー等高大連携イベント講師（教授、准教授）
- アクティブラーニング職員研修講師（教授）
- 佐賀県の委員会・審査会の委員（教授）
- 「マイクロソフトイノベーションセンター in SAGA」を核とした五者協定の締結とその活動推進（教授）
- 九州地域の医療機関における電波利用推進協議会座長（教授）
- 九州経済連合会情報通信委員会委員（教授）
- 佐賀県警察サイバー犯罪対策技術アドバイザー（准教授）
- ISO/IEC JTC1/SC7/WG20 委員（准教授）
- 他大学の FD 研修会講師（教授）
- 地元企業アドバイザー（教授）
- 地元企業とのインターンシップ申し合わせの提携（教授）
- 佐賀大学 RIC と協力した佐賀大学発ベンチャーの起業（准教授）

【機能物質化学科】

- 学会等の論文査読委員（教授・准教授・助教）
- 電気化学会九州支部 庶務幹事（教授）
- 日本分析化学会九州支部 支部長（教授）
- 日本分析化学会九州支部 幹事（教授）
- 日本分析化学会九州支部 庶務幹事（准教授）
- 電気化学会 各賞選考委員会委員（教授）
- 日本ポーラログラフ学会 理事（教授）
- 日本ポーラログラフ学会 編集委員（教授）
- 日本法科学技術学会 評議委員（教授）
- 日本化学会 化学技術賞選考委員会（教授）
- 日本化学会九州支部 幹事（教授）
- 第 29 回日本 MRS 年次大会 シンポジウムオーガナイザー（教授）
- 第 79 回分析化学討論会 実行委員会（教授・准教授）
- 化学工学会九州支部幹事（教授）
- The 16th International Conference on Quality in Research, International Advisory Board（教授）
- 日本セラミックス協会九州支部 常議員（准教授）
- Bulletin of the Chemical Society of Japan の編集委員（教授）
- 「第 64 回ポーラログラフイーおよび電気分析討論会」の実行委員長（教授）
- The 1st International Co-operative Seminar of Post-graduate Program for Global Advancement(PPGA)の実行委員長（教授）
- H30 年度佐賀県窯業技術センター運営委員会（教授）

- 講演会「有田焼創業 400 年を経て 肥前窯業圏 次の百年に向けて 何が望まれているか 何をすべきか」(准教授)
- 佐賀大学肥前セラミック研究センター・佐賀県窯業技術センター・長崎県窯業技術センター 合同研究成果発表会 (准教授)
- 九州ファインセラミックス・テクノフォーラム (准教授)
- 佐賀県窯業技術センター研究評価委員 (准教授)
- 第 21 回連携大学院産学官交流セミナー (教授・准教授)
- 致遠館高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「理系ガイダンス講座」(准教授)
- SSH 事業 大学研修 (准教授)
- 科学へのとびら (准教授)
- 佐賀大学ジョイントセミナー (教授・准教授)
- 九州地区国立 4 大学合同入試直前相談会 (教授)
- 九州地区国立大学合同説明会 (教授)
- 高大連携プログラム「体験実験化学教室」(教授)
- 九州高等学校生徒理科研究発表大会 佐賀大会 (教授)
- 第 18 回 佐賀県理科・化学教育研究発表会 (教授)
- SAGA ものすごフェスタものづくり体験 (准教授)
- 肥前地区キャリア教育プログラム (准教授)
- さが科学少年団 (准教授)
- 「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」講師 (教授)
- 2018 さがを創る大交流会 (教授・准教授)
- 工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀 大学見学会 (教授・准教授)
- 日本技術者教育認定機構 審査研修員 (教授)
- JST 審査委員 (教授)
- JSPS 審査委員 (教授・准教授)
- 平成 30 年度「佐賀市エコプラザ運営委員」(教授)
- 化学工学会九州支部 第 21 回企業と大学・高専の人材育成懇談会 (教授)

【機械システム工学科】

- 学会理事 (教授)
- 学会評議員 (教授)
- 学会校閲委員・編集委員・運営委員 (教授)
- 学会九州支部理事・評議員・商議員・常議員など (教授, 准教授)
- 研究会会長・幹事など (教授, 准教授)
- 学会開催の実行委員・運営委員など (教授)
- 県審議会・連携会議委員会委員 (教授)

- 県立学校評議員（教授）
- ジョイントセミナー（准教授）
- スーパーサイエンスハイスクールの講師（准教授）
- 佐賀再エネパイオニア育成講座（教授）
- 佐賀県ロボット研究会（准教授）
- JGMA ギアカレッジ（准教授）
- 地域企業技術相談・勉強会（教授，准教授）

【電気電子工学科】

- 佐賀県立伊万里高校 進路研究「職業セミナー」（准教授）
- 佐賀大学高大連携プロジェクト「科学へのとびら」（教授、准教授）
- 佐賀県立致遠館高等学校スーパーサイエンスハイスクール（教授、准教授）
- 佐賀県立小城高等学校オンリーワン発表会（准教授）
- 夢ナビライブ（准教授）
- 第 20 回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会（佐賀大会）（准教授）
- ジョイントセミナー（准教授）
- 生理学エデュケーター（教授）
- 六角小学校児童に対する研究室見学会（教授、准教授）
- 平成 30 年度 高度技術研修ものづくり技術者育成講座電気電子コース（准教授）
- 女子中高生の理系進路選択支援プログラムの活動（教授）
- H30 大学電気系教員協議会参加（准教授）
- 佐賀大学の授業を受けてみよう（教授）
- 第 20 回自己組織化マップ研究会 2019（准教授）
- 科学技術専門家ネットワーク（教授）
- 電気学会九州支部役員（准教授）
- 表面真空学会九州支部長（教授）
- 佐賀県内企業訪問と技術相談委員（教授）
- 企業の課題と状況相談（教授）
- プラズマ核融合学会九州沖縄山口支部役員（教授）
- 電気学会論文委員会編集委員（教授）
- 電気電子工学科「合同業界研究会」（教授）
- 電気学会計測技術委員会 1 号委員（准教授）
- 佐賀県河川管理施設長寿命化計画（ダム編）の策定（教授）
- 佐賀県型ものづくり人材創造・育成プログラム研究会座長（教授）
- MWE2018 大学展示（教授）
- ポータブル光音響イメージング装置の開発（准教授）

- 京都府立医科大学研修員（准教授）

【都市工学科】

国、自治体からの依頼により、審議委員会や技術検討委員会等の委員長や委員を務めた。例えば、以下の通りである。

- 日本建築学会において、農村計画委員会委員、同集落復興小委員会主査等、九州支部委員等として社会貢献活動に取り組んだ。（准教授）
- 日本ヒートアイランド学会の理事として、学会運営に関わった。（准教授）
- 鳥栖市新庁舎建設基本・実施設計業務プロポーザルに審査員として携わった。（准教授）
- 基山町空き家対策協議会委員・基山町まちづくり検討委員のほか、佐賀県景観アドバイザーとして地域整備に携わっている。（准教授）
- 佐賀県建設工事入札審査会委員、佐賀市公共事業評価監視委員会委員（委員長）、唐津市建設工事等入札監視委員会、の各委員として貢献した。（教授）
- 環境省有明海・八代海総合調査評価委員会委員をはじめ、国土交通省（九州河川技術懇談会委員、六角川学識者懇談会委員）、佐賀県開発審査会委員等、現在7つの委員会委員として参画し、学識経験者として活動している。（教授）
- 神崎市総合戦略推進委員会の委員を引き受けた。（准教授）
- 佐賀県都市計画審議会の委員を引き受けた。（准教授）
- 鹿島市都市計画審議会の委員・副委員長を引き受けた。（准教授）
- 佐賀市放置自転車対策協議会の委員・委員長を引き受けた。（准教授）
- 土木のイメージアップ連絡協議会の委員長および幹事に就任した。（准教授）
- 佐賀県公共事業評価監視委員会の委員を引き受けた。（准教授）
- 学校安全総合支援事業推進委員会の委員及び副会長を引き受けた。（准教授）
- 佐賀県佐賀城公園好生館跡地整備検討委員会の委員を引き受けた。（准教授）
- 佐賀県環境影響評価審査会の委員として佐賀県へ協力した。（講師）

各種学会の委員長や委員を務めた。例えば、以下の通りである。

- 土木学会、地盤工学会の研究委員会委員長などの各種委員を務めた。（教授、准教授）
- 九州橋梁・構造工学研究会、KABSE 論文集委員会委員長として、論文集の発行に中心的役割をはたした。（教授）
- 国土交通省、佐賀県、佐賀市、伊万里市、小城市などからの協力依頼に応じた。（教授）
- 日本建築学会九州支部常議員を務めることになった。（助教）
- 日本都市計画学会九州支部の幹事を引き受けた。（准教授）
- 日本ヒートアイランド学会の理事として、学会運営に関わった。（准教授）
- 日本建築学会の都市環境・都市設備運営委員会委員を務めた。（准教授）

- 日本水環境学会九州沖縄支部理事として活動した。(教授)
 - 低平地研究会の運営委員長、幹事長、部会長、編集委員として活動し、低平地技術の研究推進と情報発信を行い地域へ貢献した。(教授、准教授、講師)
- 国、自治体等の依頼により、技術相談や研究指導を実施した。例えば、以下の通りである。
- 佐賀大学 TLO を通じた技術移転に協力した。(教授)
 - 中国への水処理技術の移転に関して、柳川市の中間産廃業者からの技術相談に応じた。(教授)
 - 佐賀県および国(国土交通省)と協同して、将来の地球温暖化に向けた佐賀平野における治水適応策について、研究を行っている。(准教授)
 - 各種講演会での講師を引き受けた。例えば、以下の通りである。
 - 佐賀県建築士会主催の公開講座、災害対策勉強会「佐賀の災害に備える」で講師を務めた。(准教授)
 - 全国地中熱利用交流会において、「地中熱モデル住宅での快適性と省エネ性の実証事例」と題して講演を行った。(教授)
 - スーパーサイエンスハイスクール、ジョイントセミナーの講師として高等学校で演習および講演をした。(教授)
 - 佐賀環境フォーラムの講師を務めた。(准教授)
 - 国土地理院より講演を引き受けた。(准教授)
 - 佐賀県土づくりコンサルタント協会の依頼を受け、有限要素数値解析講座(塾)に講師を務めた。(教授)
 - 地盤工学に関する講習会を行うとともに、佐賀県の技術士会や建築士会の研修会で講義を行った。(教授、准教授)

3.4. 組織運営の領域

【数理科学科】

- 理工学部各種委員の担当(全教員)
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加(教授、准教授)

【物理科学科】

- 理工学部・工学系研究科各種委員の担当(教授、准教授)
- 学科内の各種委員の担当(教授、准教授)
- 全学委員会の委員を担当(教授、准教授)
- 平成31年度以降の新教育課程の準備に関する委員会の委員(教授、准教授)
- 学部入学試験出題委員(教授、准教授)

【知能情報システム学科】

- 学長補佐(教授)
- 全学委員の担当(教授、准教授)

- 全学委員会の委員長（教授）
- 理工学部委員会の委員長（教授）
- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 他部局やセンターの運営委員、併任教員（教授、准教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 学科独自の就学支援システムの開発、改良、運用（教授）

【機能物質化学科】

- 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 理工学部長（教授）
- 全学教育機構機副構長（教授）
- 理工学部・工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- 教育質保証委員会委員長（教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授・准教授・助教）

など、学部長をはじめとして各種全学委員会委員長をとおして組織運営に大きく貢献している。

【機械システム工学科】

- 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 各種全学委員会委員（教授）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 後援会協賛のOB懇談会開催（全教員）

【電気電子工学科】

- 学長補佐（教授）
- 全学教育機構高等教育開発室 教育企画委員会（准教授）
- 入試改革推進室会議（准教授）
- 学生支援室学習支援部門会議（准教授）
- 全学委員会委員（教授、准教授）
- 副学部長（教授）
- 学部長補佐（教授）
- 理工学部教務委員会委員長（教授）
- 理工学部各種委員の担当（全教員）
- 専攻・学科関連各種委員（全教員）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【都市工学科】

- 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学委員会委員（教授、准教授）
- 専攻内教育システム委員会（教授、准教授、助教）

- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

学科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学科	教 授	3-4	60-80	3-5	60-90	2-4	40-80	3-5	50-95	3-4
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	2-5	40-90	0-5	0-90	3-5	60-100	3-4
物理科学科	教 授	3-4	70-90	2-4	50-80	3-3	60-90	3-4	70-90	2-3
	准教授	3-4	60-80	3-4	60-80	3-4	40-80	1-4	0-80	3-4
知能情報 システム学 学科	教 授	4-5	80-100	4-5	70-100	4-5	80-100	4-5	90-100	4-5
	准教授 (含講師)	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	60-100	4-5	80-100	4-5
	助 教	3-4	75-100	2-5	10-100	1-5	0-100	3-4	70-100	2-4
機能物質化学 学科	教 授	3-5	50-100	2-5	40-100	3-5	80-100	3-5	60-100	3-5
	准教授	4-5	70-100	2-5	50-100	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5
	助 教	2-4	40-80	2-3	40-70	2-4	40-80	2-5	40-95	2-4
機械システム 工学科	教 授	4-5	80-100	3-5	80-100	3-5	80-100	4-5	80-100	4-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	3-5	60-100	2-5	30-100	2-5	50-100	3-5
	助 教	3-4	70-100	3-4	50-80	3-4	60-100	3-4	70-100	3-4
電気電子工学 学科	教 授	3-5	70-123	4-5	90-171	4-5	70-272	5-5	90-110	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	2-5	50-100	3-5	50-100	3-5	75-100	3-5
	助 教	4-4	80-80	4-5	80-100	4-4	75-90	3-5	70-100	4-4
都市工学科	教 授	4-5	80-100	3-5	80-100	4-5	70-100	3-5	70-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	3-5	50-100	3-5	60-100	3-5	50-100	3-5
	助 教	4-4	80-80	3-3	70-70	3-3	60-60	3-3	50-50	3-3

表中、例えば、評価点(3-4)は（最小値 3-最大値 4）であったことを表す。

【数理科学科】

この表から、各教員は適正な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学科】

この表から、教員はおおむね適切な自己評価を行っていると思われる。

【知能情報システム学科】

この表から、一部の助教を除き、各教員は客観的かつ適切な目標設定、自己評価を行っていると思われる。

【機能物質化学科】

達成率は年度初めの目標に対する実績を示すと考えられるが、達成率と評価点は必ずしも連動していない。例えば、高い目標値を設定したものの達成率が 100%でなくても、その実績が十分であれば評価点は高く評価したと考えられ、教員毎の判断基準が統一さ

れていないので容易な判断はできない。全体的には、高い目標を掲げて積極的に挑戦していく姿勢が窺い知れる。

【機械システム工学科】

この表から、一部教員においては厳しい自己評価を行っているものの、全体としては各教員はそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。

【電気電子工学科】

この表から、各教員は概ね良好な自己評価を行っていると思われる。

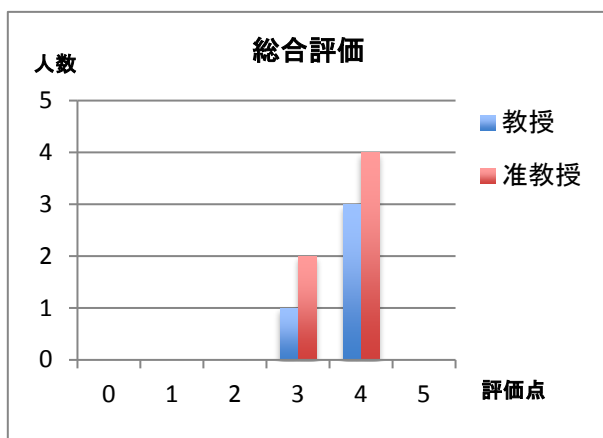
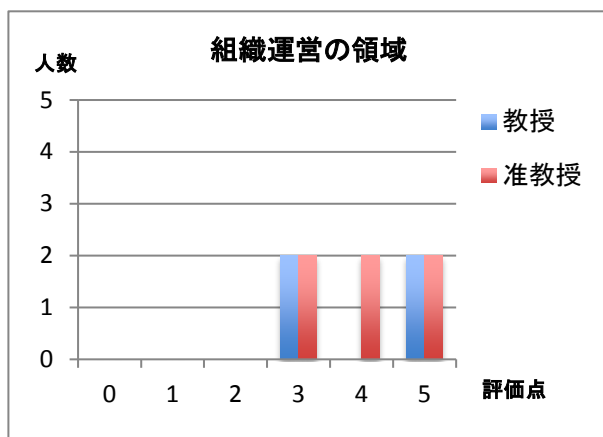
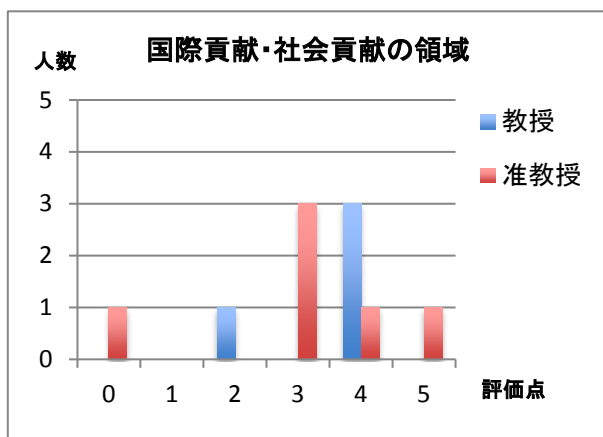
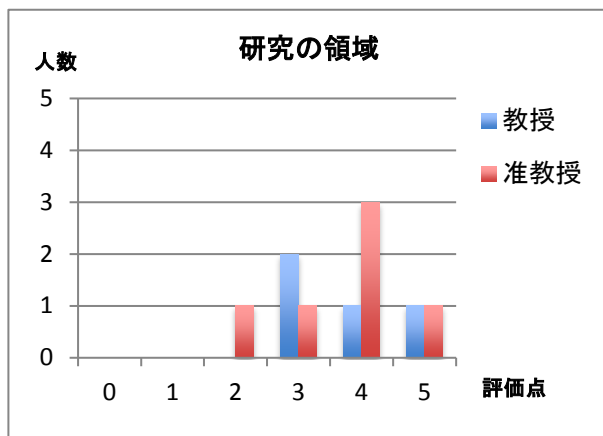
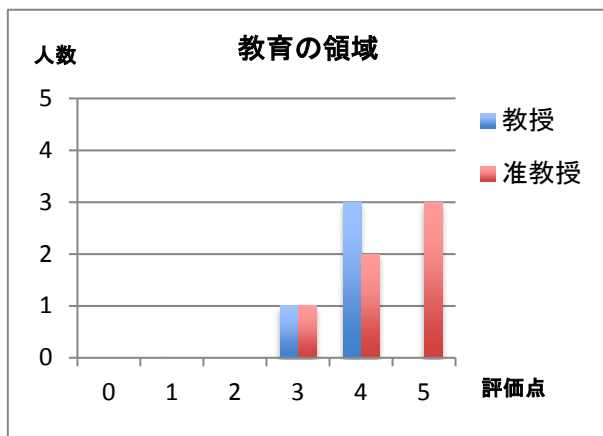
【都市工学科】

この表から、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。

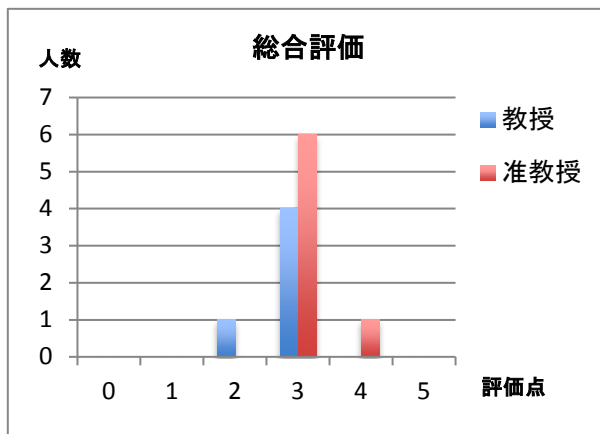
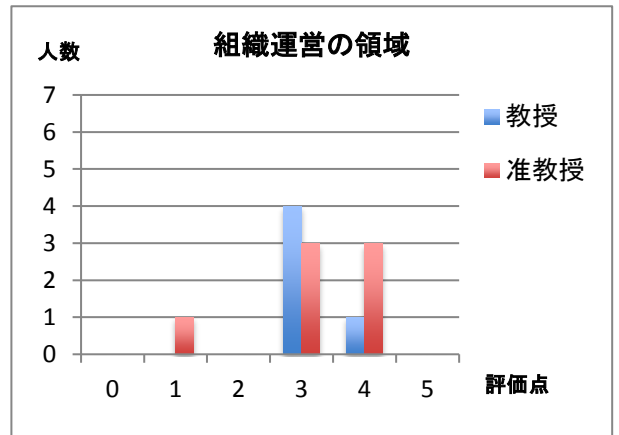
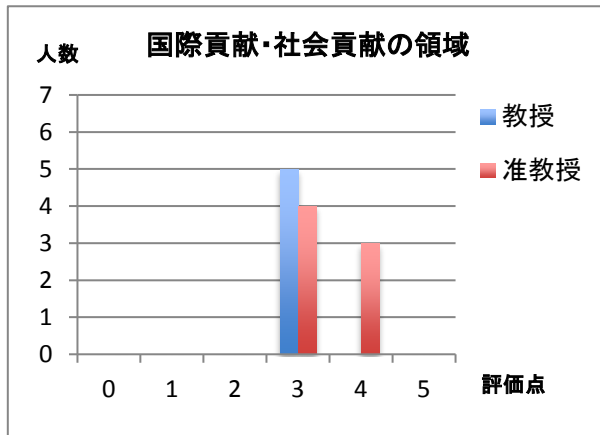
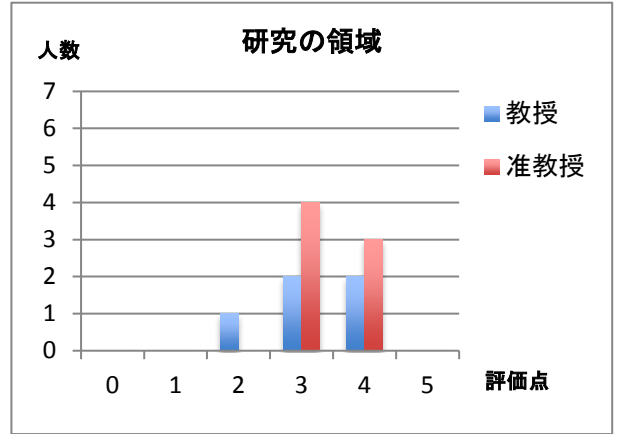
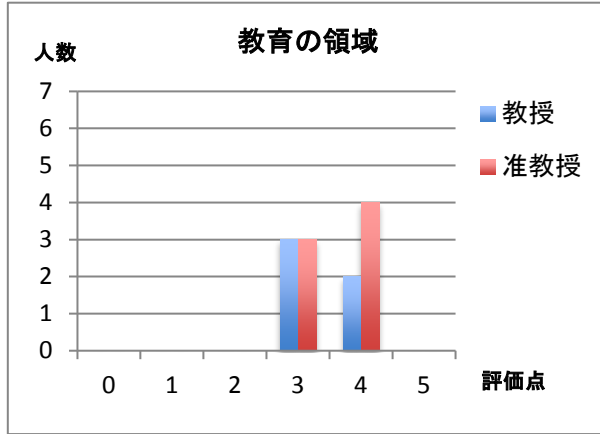
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

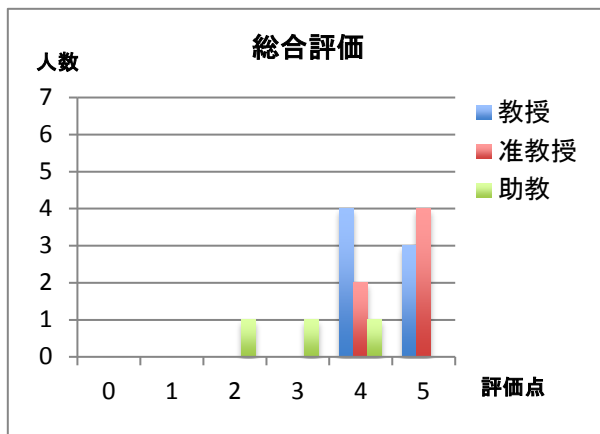
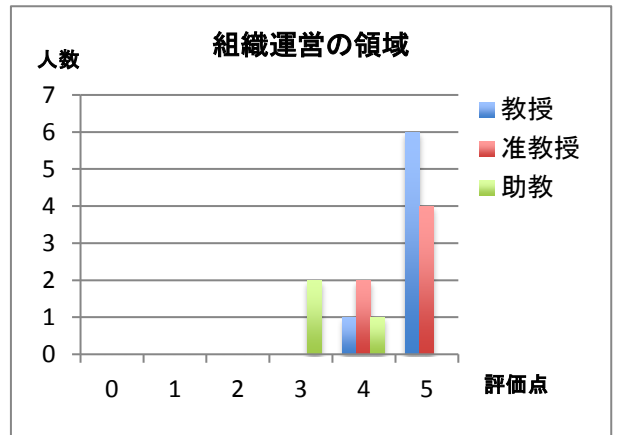
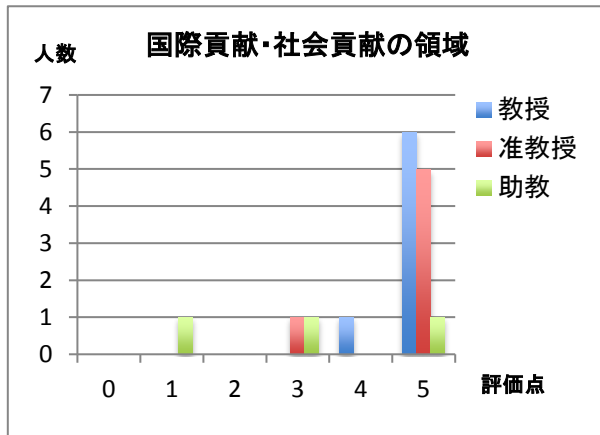
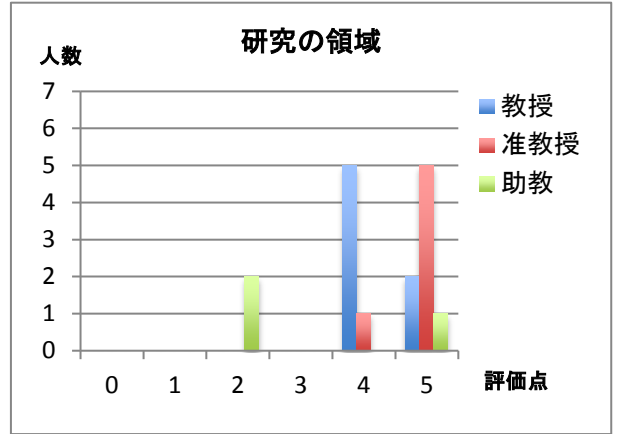
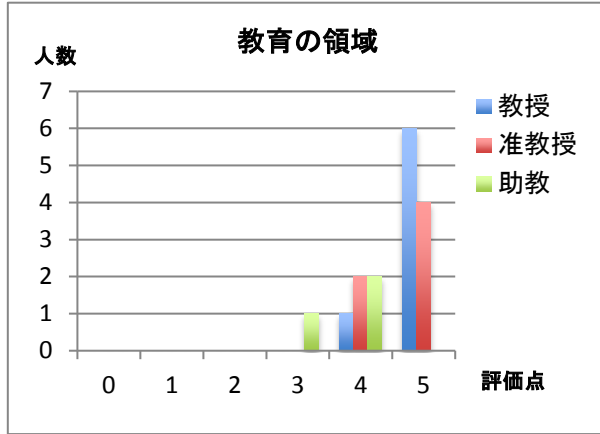
【数理科学科】



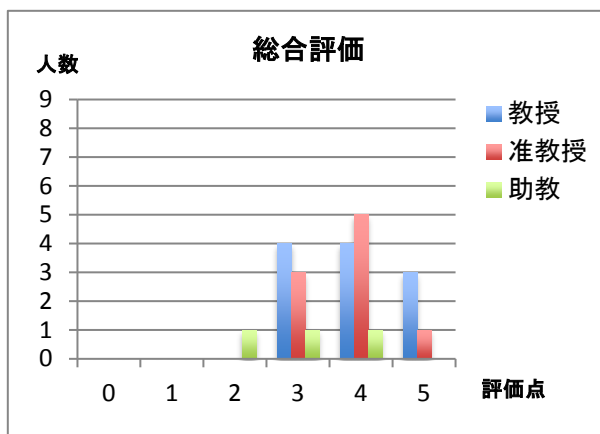
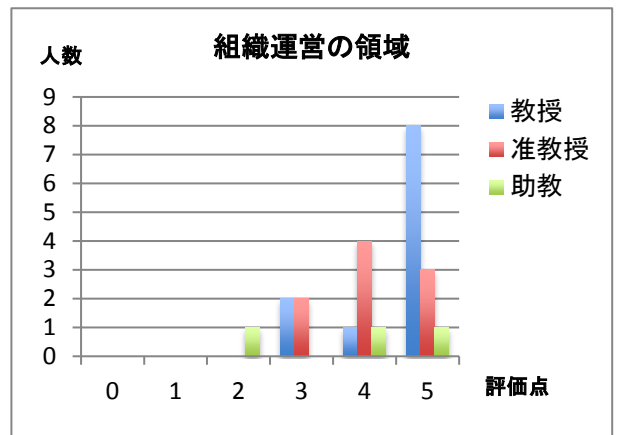
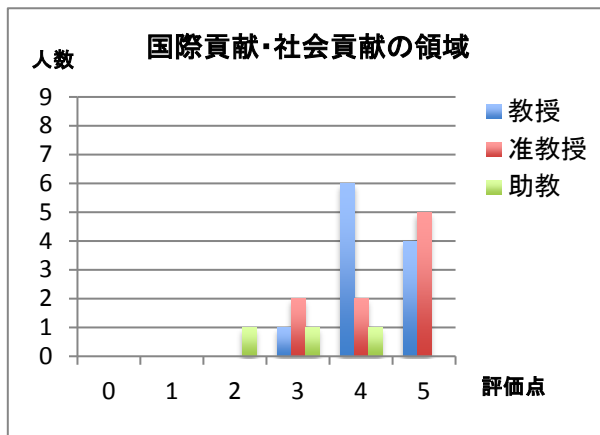
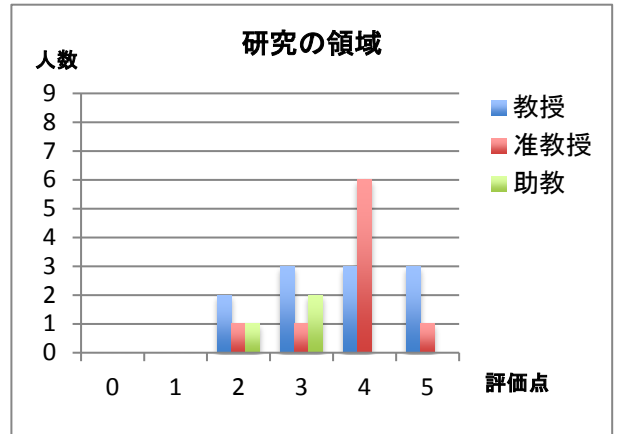
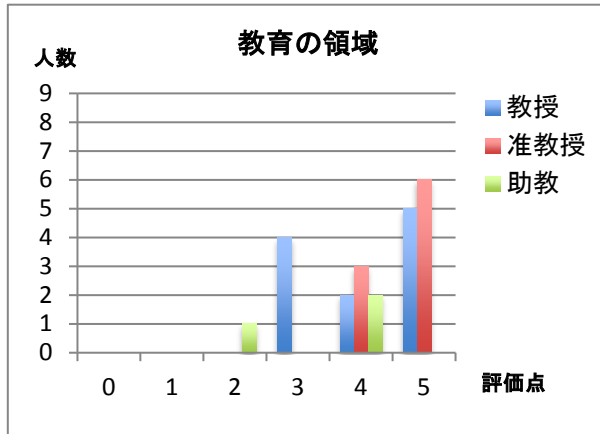
【物理科学科】



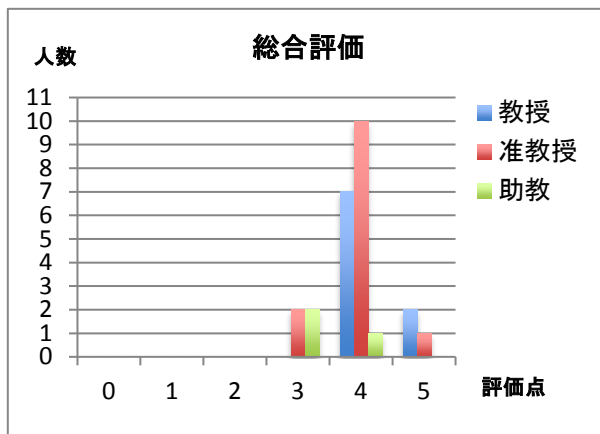
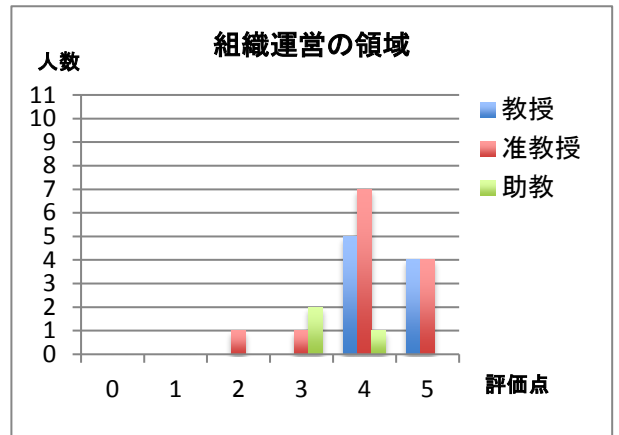
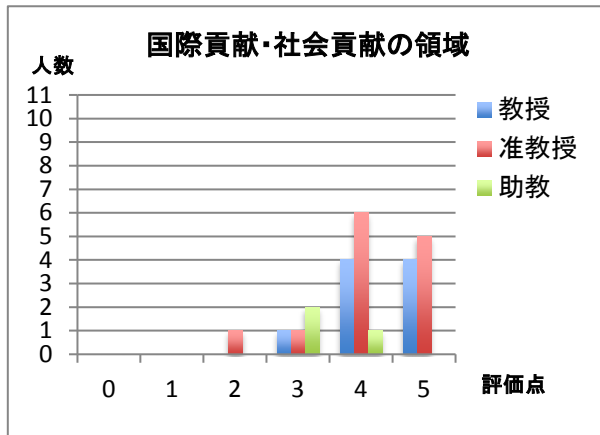
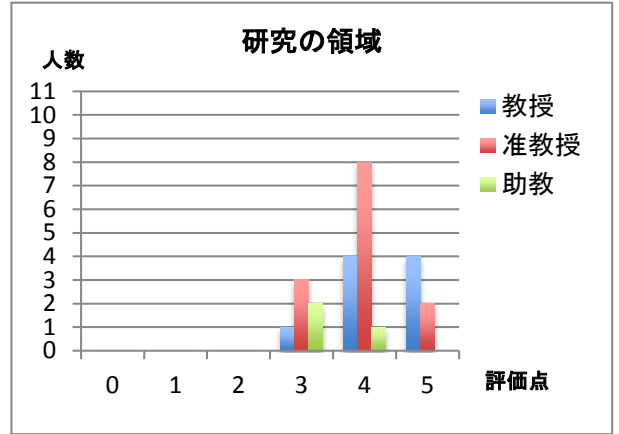
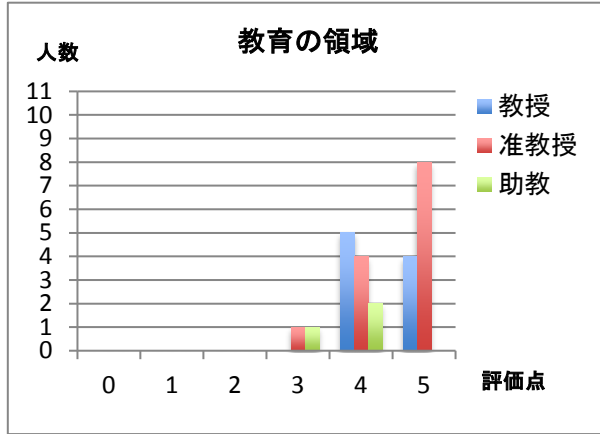
【知能情報システム学科】



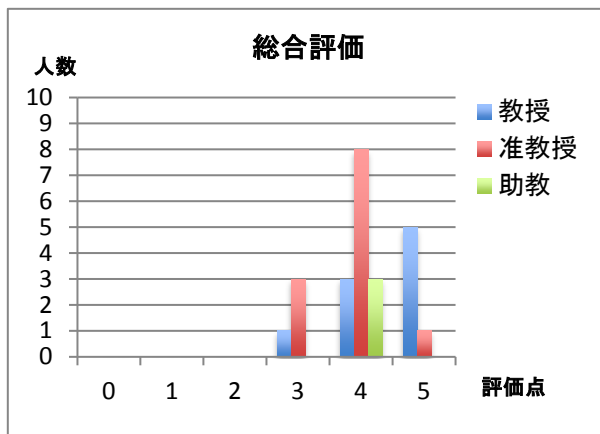
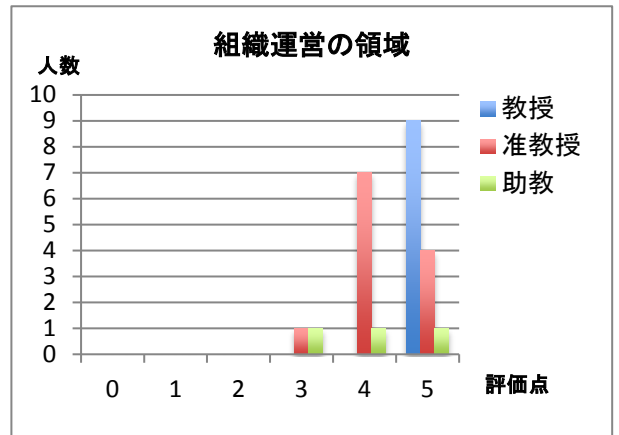
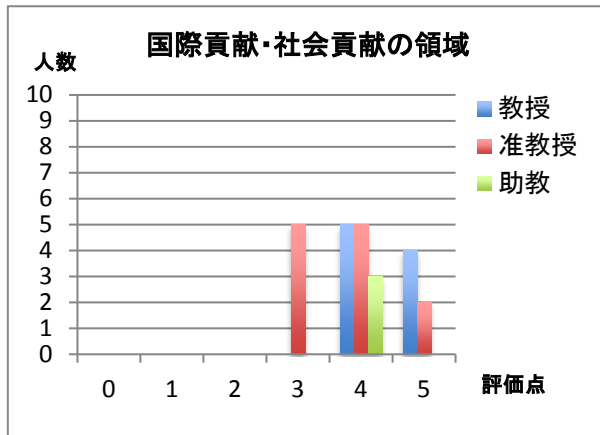
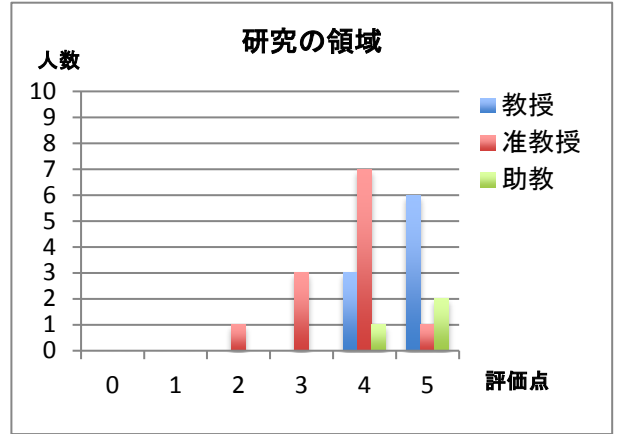
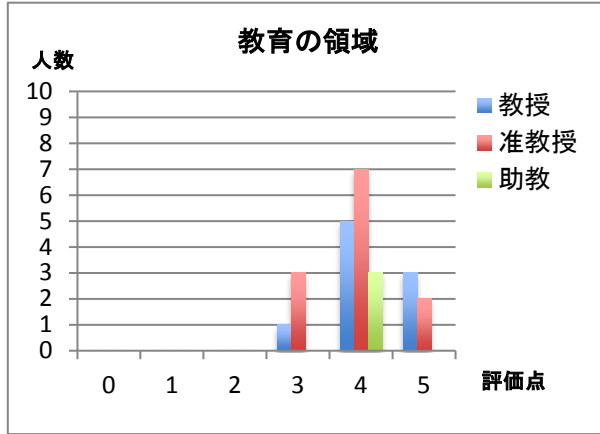
【機能物質化学科】



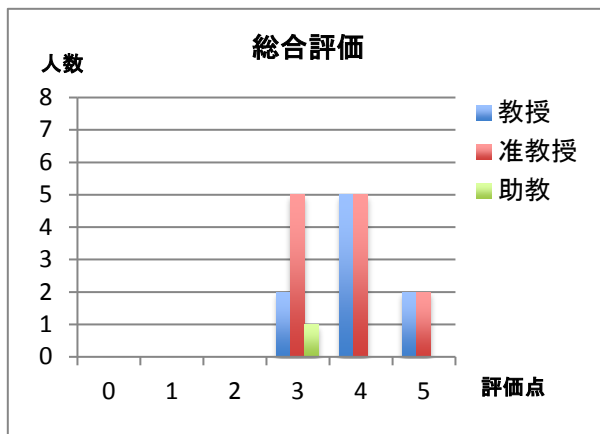
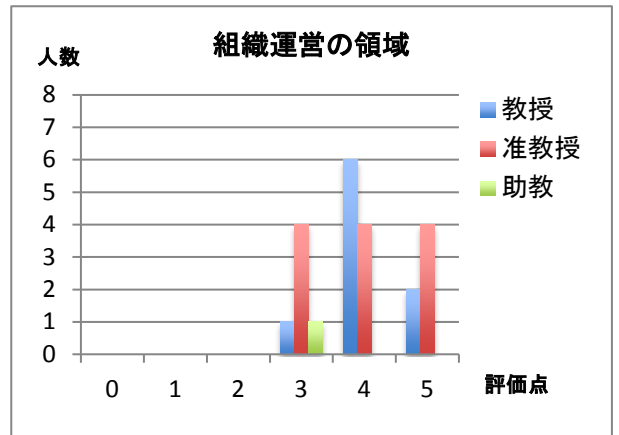
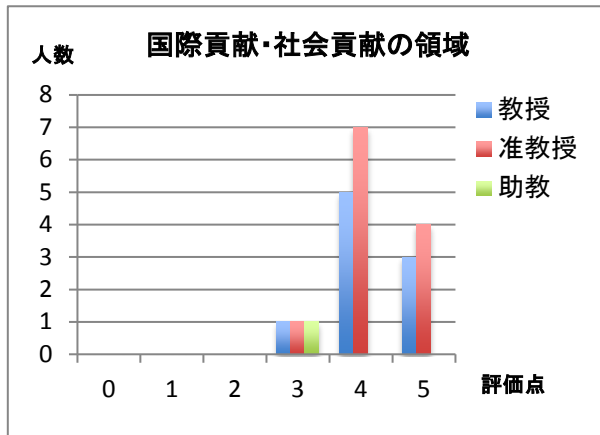
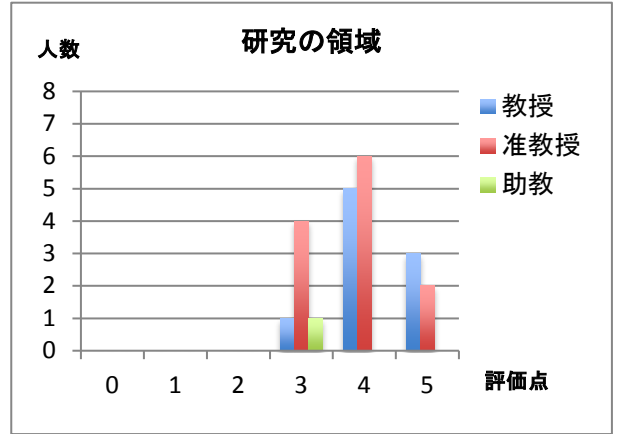
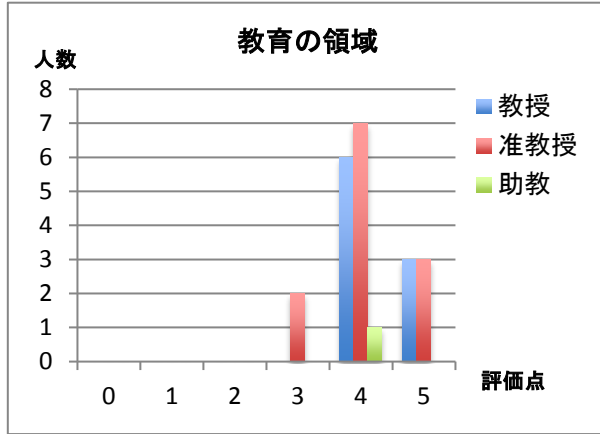
【機械システム工学科】



【電気電子工学科】



【都市工学科】



4.3. 評価委員からのコメント

各学科の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理科学科】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率、入試問題作成や共通教育などにおいて本学・本研究科に貢献しているため、自己評価は妥当である。
2. 論文発表や国際研究集会へ参加および講演など、研究面において質の高い貢献をしていると評価できる。
3. 社会貢献に関してはその需要の多様化が認められる。教員数 1 名減があった直後の年度においてそのような状況への対応が適切になされていることは、評価に値する。

【物理科学科】

1. 平成30年度は翌年度にスタートする新教育課程の準備や新しい教職課程への対応に貢献した教員が少なからずおり、本報告書に現れない負担をお願いすることになった。
2. 各教員は、日常的なFD活動を継続し教育改善に取り組んでいる。また、演習問題の出題や中間試験を実施するなどの自学自習時間を増やす取組が行われている。また、学科全体で留年率を抑制するため、1年次の専門必修科目について全チューター教員による補習を実施し、その後に再試験を行い、学力が不足する学生に対する早期発見改善に努めている。
3. 研究活動については、概ね良好なアクティビティを維持していると思われる。教育研究費が不足している中、学生（院生）による学会発表なども定着してきており、研究の高いアクティビティが教育の活性化にもつながっている
4. 社会貢献や国際交流の活動も継続されている。また専門性を活かして一般向け講演、サイエンスカフェなどのアウトリーチ活動にも貢献している。

【知能情報システム学科】

1. 教育の領域においては、全教員が積極的に貢献しており、改善が継続的に行われている。教育負担の均等化は、大学院において改善されつつある。学部において、改組に伴うカリキュラム変更へ対応しながら、今後も継続していく必要がある。
2. 研究の領域では、教授、准教授とも非常に活発である一方、3名中2名の助教の研究に対する貢献は非常に低い状態が続いている。これは、次年度以降に向けて改善していかなければならない点である。
3. 国際貢献の領域では、留学生の受け入れや、海外の大学との連携など、積極的に活動を行っており、こうした活動を今後も継続していくことが望まれる。
4. 社会貢献の領域では、教授、准教授とも学協会活動のほか、佐賀県その他の各種協議会運営委員等、非常に積極的に貢献を行っている。
5. 組織貢献の領域では、全教員が、全学委員会委員、理工学部・工学系研究科各委員会委員、他部局やセンターの運営委員、併任教員等として、組織運営に積極的に貢献し

ている。

【機能物質化学科】

1. 学部教育においては JABEE 認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。機能材料化学コースでは、2006 年度の JABEE 新規認定からはじまり、2011 年度継続審査、2017 年度継続審査を経て現在まで 12 年間、質の高い教育が認定された場合にのみ許可される「6 年間認定」を継続している。物質化学コースにおいても、材料化学コース同等の教育体制を構築して差異のない充実した教育体制を整えている。
2. 大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの日本人学生に加えて外国人学生に対しても指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。学生の研究を通じた教育の成果は、学会での受賞などに反映されている。
3. 研究においては、ほとんどの教員が査読付きの英文誌に論文発表をしている。発表論文の中には IF 値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、質の高い研究が行われている。和文論文であっても、学会誌から依頼された総説・解説であり、その分野で脚光を浴びる成果が上がっていると判断される。
4. 外部資金獲得においては、科研費をはじめ NEDO、JST や民間企業と共同・受託研究の申請を精力的に行い、学内研究費が大きく削減された以上を競争的資金から獲得している。これは、多くの教員が学科、研究科、学部、大学間または国際研究で連携して共同研究を進めているためでもある。各教員の日々の努力が窺い知れる。
5. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行うことはもとより、海外の研究者との研究交流も活発である。また、理工学部の支援による国際パートナーシッププログラムにも積極的に専攻として貢献している。
6. 地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や、佐賀県や九州地区の理科教育への協力、佐賀地域の理科・科学振興のための事業への参画など、多くの教員が地域貢献に尽力している。社会貢献としては、学会の主要な委員を務める、非営利団体と連携するなどして、学会活動等にも努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
7. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍している。また重責を担う役職を担う教員もあり、その貢献度は本学の中でも極めて高い。一方で、その重責の責務の教員を学科全体で支える態勢が出来ていることも高く評価できる。また、本学科はその学問的基盤により環境活動や薬品管理システム等の安全管理にも学内で先導的活動を行っている。

【機械システム工学科】

1. 教育に関して、機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けており、教員の日々の創意工夫によって質の高い教育が保証・維持されている。また、個々の講義に関しては、教員一人当たりの担当科目数が増える

中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が見られる。

大学院教育では、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。英語による教育にも力が入れられ、大学院学生の国内外の学会での発表も多く行われている。

2. 研究に関して、国内外の学会などにおいて論文発表が精力的に行われている。研究費は、科学研究費補助金のみならず、企業との共同研究、奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れ、NEDOなどのプロジェクト研究についても積極的かつ継続的に取り組まれている。これらのことから、学科内教員の研究に対する国の機関や民間企業等の強い期待が伺われる。
3. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員などの活動を行い、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行っている。
4. 組織運営に当たっては、全教員が研究科および学部、学科内の様々な委員を誠実に努め、責務を果たしている。

上記 1～4 と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学科】

1. 教育の領域においては、学科内の教育に関する委員会が活発に行われており、教員それぞれが創意工夫して教育改善に取り組んでいる。学部教育については、准教授の負担が大きくなっている。また、卒業研究や特別研究での教育研究指導により、学会発表等において多数の学生が受賞されている。
2. 研究活動においては、質の高い論文発表がなされ、共同研究も活発に行われている。また、教授を中心に、研究に関する受賞も数多くなされている。助教の論文発表が准教授よりも多くなっている。准教授の教育負担との兼ね合いもあるが、准教授には研究活動にもより一層力を入れていただきたい。
3. 国際交流においては、国際学会への参加を中心として、共同研究も実施されている。社会貢献においては、学会役員、国際学会編集委員、論文編集委員、論文査読委員、高大接続事業、地域での科学実験講師など幅広い活動が行われている。
4. 組織運営にあたっては、学長補佐、副学部長、学部長補佐、理工学部教務委員長を初めとして、全学委員、研究科内委員、専攻・学科内委員ともに、着実に担当が遂行されている。
5. すべての領域において、良好な成果が出ており、教員それぞれが今後も継続的な向上に努めていただきたい。また、自己評価において、達成率が高い領域においては、より高い目標を設定し、達成率が低い領域においては、達成できるように努力していただきたい。

【都市工学科】

1. 教育について

- 教授の教育負担で見ると、学部の担当コマ数は平成 29 年度と比べ、やや軽減されている。
- 准教授（講師含む）の教育負担で見ると、学部の担当コマ数は平成 29 年度と比べ、やや増加した。
- 教授・准教授ともに、指導人数の減少が生じている。これは、修士学生の入学者減少に伴うものであり、学部卒学生の就職売り手市場にも大きく依存しているものと思われる。修士課程改組の広報とともに、入学者確保のための学生指導も継続的に行う必要がある。
- 教授・准教授ともに、例年並みの学生数に対して、卒業研究の指導を担当している。一方で、学生の希望する研究分野に若干の温度差も見られる。一概にはいえないが、学科全体の発展を踏まえると、人気のある分野に偏らない優秀な学生を社会に輩出する必要もあり、不人気な研究分野においては、学生へのアピールとともに教育カリキュラムの見直しを含めた検討の着手が必要なのかもしれない。
- 学生の授業評価を踏まえ、学生に分かりやすくする様々な授業の工夫が実践されており、総体的に授業方法の改善が図られていると考えられる。
- 組織改組に伴って、新たな教育システムの改善に着手し、学科・専攻のミッション検討を行っている。

2. 研究について

- 研究に関する個人目標の達成度は、教授で 92%、准教授（講師含む）で 78%、助教で 70%の達成率で、全平均では 80%であり、総じて良好と評価される。一方で、研究の一評価軸としての論文数は、前年同様、教員個人間でばらつきが大きい。
- 研究分野の事情も背景にあると考えられるが、研究活動の落ち込みを極力少なくし、専攻全体の研究活動を一層高めるため、教員自身の自覚と努力のほか、教育システムの改善等も望まれる。

3. 地域・国際貢献について

- 多くの教員が行政などの各種委員会や審査会、講演会などを介して地域社会に貢献している。
- 多くの教員が理工学部を取り組む国際的な活動に積極的に関わるとともに、外国から研究員、大学院生（留学生）の受け入れ、SPACE-E 学生、海外大学での講義、及び国際的共同研究の実施により、国際学術交流を行っている。
- 多くの教員が地域の要望に応じ、技術相談や技術移転に協力するとともに、共同研究に向けた取り組みを常に意識している。

令和元年度理工学部評価委員会委員

委員長	渡 孝 則	(学部長, 令和元年 9 月まで)
委員長	豊田 一彦	(学部長, 令和元年 10 月から)
委員	後藤 聡	(副学部長・評議員)
委員	豊田 一彦	(副学部長, 令和元年 9 月まで)
委員	佐藤 和也	(副学部長, 令和元年 10 月から)
委員	皆本 晃弥	(副学部長, 令和元年 10 月から)
委員	田中 徹	(教務委員会委員長)
委員	山田 泰教	(教育質保証委員会委員長)
委員	半田 賢司	(数理部門長)
委員	船久保 公一	(物理学部門長)
委員	岡崎 泰久	(情報部門長)
委員	富永 昌人	(化学部門長)
委員	服部 信祐	(機械工学部門長)
委員	後藤 聡	(電気電子工学部門)
委員	山西 博幸	(都市工学部門)
委員	寺本 顕武	(先端融合工学専攻長)
委員	横尾 寿人	(理工学部事務長)